

# ESMPRO®/ UPSManager Ver3.1

## セットアップカード

Express5800 シリーズ

UL1047-A03

UL1047-D12

UL1047-A04

UL1047-A14

1. 製品内容
2. セットアップの準備
3. セットアップの方法
4. 環境設定
5. 注意事項
6. スレーブサーバのエクスプレス通報／ALIVE 通報設定について
7. 障害発生時のログ採取方法
8. UPS 交換後の設定

# ごあいさつ

このたびは『ESMPRO®/UPSManager Ver3.1』をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。

『ESMPRO®/UPSManager Ver3.1』（以下 ESMPRO/UPSManager と称します）をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の 米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPRO は、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

## 更新履歴

| 版数  | 更新日付      | 更新内容   |
|-----|-----------|--|
| 第1版 | 2025/3/21 | 新規作成   |
| 第2版 | 2025/6/4  | <ul style="list-style-type: none"><li>「2. セットアップの準備」にサポートするハードウェア要件について内容を更新</li><li>DELL PowerEdge のサポート機種を追加</li><li>「7.3.3 Collect ログの採取」について内容を更新</li><li>装置情報収集ユーティリティの最新バージョンを記載</li></ul> |

# 目次

|  |    |
|--|----|
| 1. 製品内容  | 6  |
| 2. セットアップの準備   | 7  |
| 2. 1 ESMPRO/UPSManager サーバ   | 7  |
| 2. 2 ESMPRO/UPSManager マネージャ                                       | 8  |
| 2. 3 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェント                                | 9  |
| 2. 4 PowerChute Serial Shutdown                                    | 10 |
| 2. 5 システム構成例とインストールコンポーネント   | 11 |
| 2. 5. 1 スタンドアロン構成  | 11 |
| 2. 5. 2 マルチサーバ構成   | 13 |
| 2. 5. 3 LCD パネル有無混在のシステム構成   | 15 |
| 3. セットアップの方法   | 16 |
| 3. 1 ESMPRO/UPSManager サーバのインストール                                  | 16 |
| 3. 1. 1 Windows サーバへのインストール  | 16 |
| 3. 1. 2 Linux サーバへのインストール  | 18 |
| 3. 2 ESMPRO/UPSManager サーバのアンインストール                                | 19 |
| 3. 2. 1 Windows サーバでのアンインストール                                      | 19 |
| 3. 2. 2 Linux サーバでのアンインストール  | 21 |
| 3. 3 ESMPRO/UPSManager マネージャのインストール                                | 22 |
| 3. 4 ESMPRO/UPSManager マネージャのアンインストール                              | 24 |
| 3. 5 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのインストール                         | 26 |
| 3. 5. 1 Windows サーバへのインストール  | 26 |
| 3. 5. 2 Linux サーバへのインストール  | 28 |
| 3. 6 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのアンインストール                       | 29 |
| 3. 6. 1 Windows サーバでのアンインストール                                      | 29 |
| 3. 6. 2 Linux サーバでのアンインストール  | 31 |
| 4. 環境設定  | 32 |
| 4. 1 スタンドアロン構成時の設定   | 32 |
| 4. 1. 1 UM サーバ (Windows) の GUI へのサーバ登録                             | 32 |
| 4. 1. 2 UM サーバ (Linux) の GUI へのサーバ登録                               | 33 |
| 4. 2 LCD パネル付き Smart-UPS を使用したマルチサーバ構成設定 : UM MSA の場合              | 35 |
| 4. 2. 1 UM MSA 上での管理サーバの IP アドレス登録 (Windows OS の場合)                | 35 |
| 4. 2. 2 UM MSA 上での管理サーバの IP アドレス登録 (Linux OS の場合)                  | 36 |
| 4. 2. 3 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのライセンス登録                     | 37 |
| 4. 2. 4 UM サーバ (Windows) の GUI への UM エージェント登録                      | 38 |
| 4. 2. 5 UM マネージャの GUI へのエージェント登録                                   | 44 |
| 4. 3 LCD パネル付き Smart-UPS を使用したマルチサーバ構成設定 : UPS インタフェース拡張ボードを使用する場合 | 48 |
| 4. 3. 1 UM サーバ (Windows) の GUI へのスレーブサーバ登録                         | 48 |
| 4. 3. 2 UM マネージャの GUI へのスレーブサーバ登録                                  | 52 |
| 5. 注意事項  | 56 |
| 5. 1 環境設定及び運用関連  | 56 |
| 5. 2 インストール関連  | 58 |
| 5. 3 Linux OS 関連   | 58 |
| 5. 4 GUI 表示及び設定関連  | 58 |
| 6. スレーブサーバのエクスプレス通報／ALIVE 通報設定について                                 | 59 |
| 6. 1 「電源障害」イベント発生条件とエクスプレス通報／ALIVE 通報について                          | 59 |
| 6. 2 「電源障害」イベントの通報切り替え手順   | 60 |

|  |    |
|--|----|
| 6. 2. 1 Windows サーバ  | 60 |
| 6. 2. 2 Linux サーバ  | 60 |
| 7. 障害発生時のログ採取方法  | 61 |
| 7. 1 ESMPRO/UPSManager および UPS 制御ソフトウェアのログ採取                     | 61 |
| 7. 1. 1 ESMPRO/UPSManager によるログ採取                                | 61 |
| 7. 1. 2 ESMPRO/UPSManager／PowerChute Serial Shutdown についての手動ログ採取 | 63 |
| 7. 2 Windows OS および本体装置に関する情報の採取                                 | 64 |
| 7. 2. 1 イベントログ   | 64 |
| 7. 2. 2 システム情報ファイル   | 64 |
| 7. 2. 3 Collect ログの採取  | 64 |
| 7. 3 Linux サーバのログ採取  | 65 |
| 7. 3. 1 ESMPRO/UPSManager のログ採取                                  | 65 |
| 7. 3. 2 シスログ   | 65 |
| 7. 3. 3 Collect ログの採取  | 65 |
| 8. UPS 交換後の設定  | 66 |
| 8. 1 同一型番の UPS に交換する場合   | 66 |
| 8. 2 異なる型番の UPS に交換する場合  | 66 |

# 1. 製品内容

『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のパッケージ内容は、製品に同梱されている「構成品表」に記載されています。まず、添付品が全てそろっているか、ご確認をお願いします。

本セットアップカードは、下記型番製品を対象としています。

| 型番         | 製品名  |
|------------|--|
| UL1047-A03 | ESMPRO/UPSManager Ver3.1 (PowerChute Serial Shutdown for Business セット) |
| UL1047-D12 | ESMPRO/UPSManager Ver3.1 CoreKit                                       |
| UL1047-A04 | ESMPRO/UPSManager Ver3.1 マルチサーバエージェント基本ライセンス                           |
| UL1047-A14 | ESMPRO/UPSManager Ver3.1 マルチサーバエージェント 1 追加ライセンス                        |

表1-1

## 2. セットアップの準備

セットアップとは、ESMPRO/UPSManager の CD 媒体にある ESMPRO/UPSManager のプログラムを、実行できる形式にして固定ディスクにコピーすることです。ESMPRO/UPSManager をセットアップするためには、次の環境が必要です。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

### 2.1 ESMPRO/UPSManager サーバ

ESMPRO/UPSManager サーバ（以降 UM サーバ）とは、無停電電源装置（UPS）を接続して UPS を監視・制御するために使用するコンピュータ（管理サーバ）に、セットアップするコンポーネントです。

主に PowerChute Serial Shutdown for Business（以下 PowerChute Serial Shutdown または PCSS と記載します）のイベント監視を行うサービスモジュールと、監視情報の表示や操作を行う GUI モジュールを含んでいます。

UM サーバは UM マネージャ（後述）の機能を包含していますので、UM サーバをセットアップした環境だけでも、相互にリモート管理することができます。

ただし、Linux 用の UM サーバは、サービスモジュールのみで構成しているため、GUI を利用するためには UM マネージャのセットアップが必要になります。

#### （1）ハードウェア

##### 装置

Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズ（ブレードを除く）、  
DELL PowerEdge R760/R760xs  
R750/R750xs/R660/R660xs/R650/R650xs/R550/R450/R350（Windows のみ）

最新の対応 H/W 状況は、以下をご参照ください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→ 動作環境  
→ 動作環境一覧  
メモリ  
12.0 MB 以上

ディスク  
12.0 MB 以上

ただし、運用にあたっては作業ファイルやログファイルを生成するため、十分な空き容量が必要です。

##### 無停電電源装置

Smart-UPS 相当無停電電源装置

※シリアル／USB 接続が必要

USB 接続は UPS のタイプによって使用可否がありますので、PCSS のインストールガイドを確認してください。

#### （2）ソフトウェア

##### OS

対応 OS については、下記サイトで確認してください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→動作環境  
→対応OS一覧  
ESMPRO/UPSManager

##### UPS 制御ソフトウェア

Smart-UPS 相当無停電電源装置

PowerChute Serial Shutdown v1.3 以降（Windows/Linux）

##### 連携ソフトウェア

ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent、  
ESMPRO/ServerManager、  
WebSAM AlertManager(ESMPRO/AlertManager)の通報機能を利用する場合に必要。  
連携するには、本製品をセットアップする前に連携ソフトウェアをセットアップしてください。  
本製品のセットアップ後に連携したい場合は、本製品を一度アンインストールします。連携ソフトウェアをセットアップした後に本製品を再セットアップしてください。  
連携ソフトウェアのダウンロードについて、下記サイトを参照してください。  
ダウンロード: サーバ管理 ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent | NEC

## 2. 2 ESMPRO/UPSManager マネージャ

ESMPRO/UPSManager マネージャ（以降 UM マネージャ）とは、無停電電源装置（UPS）を使用しないコンピュータ上から、UPS に接続して運用するサーバをリモートから管理するための端末へセットアップするコンポーネントです。監視・操作用の GUI のみインストールします。なお、UM マネージャのインストール台数に制限はありません（ライセンスフリー）。システム環境に応じてインストールしてください。

### (1) ハードウェア

#### 装置

Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズ(ブレードを除く)、PC-AT 互換機、  
DELL PowerEdge R760/R760xs  
R750/R750xs/R660/R660xs/R650/R650xs/R550/R450/R350 (Windows のみ)

最新の対応 H/W 状況は、以下をご参照ください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→ 動作環境  
→ 動作環境一覧

4. 0 MB 以上  
1. 0 MB 以上

ただし、運用にあたっては作業ファイルやログファイルを生成するため、十分な空き容量が必要です。

### (2) ソフトウェア

#### OS

対応 OS については、下記サイトで確認してください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→動作環境  
→対応OS一覧  
ESMPRO/UPSManager

#### 連携ソフトウェア

##### ESMPRO/ServerManager

連携するには、本製品をセットアップする前に ESMPRO/ServerManager をセットアップしておいてください。

本製品のセットアップ後に連携したい場合は、本製品を一度アンインストールします。

ESMPRO/ServerManager をセットアップした後に本製品を再セットアップしてください。

連携ソフトウェアのダウンロードについて、下記サイトを参照してください。

[ダウンロード: サーバ管理 ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent | NEC](#)

## 2. 3 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェント

ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェント（以降 UM MSA）とは、LCD パネル付き Smart-UPS を使用してマルチサーバ構成で運用する際、UPS を監視・制御する UM サーバをインストールした管理サーバから指示によりシャットダウン制御を行うサーバ（UM エージェント）にセットアップするコンポーネントです。1 台の管理サーバに、UM エージェントは 7 台まで管理可能であり、台数に応じたライセンスが必要となります。管理サーバにおいて必要台数分のライセンスを登録後、UM エージェントの制御が可能になります。

管理サーバと UM エージェントの電源は、同じコントロールコンセントグループに接続する必要があり、コントロールコンセントグループ単位での電源制御は行えません。

なお、LCD パネル付き Smart-UPS を使用したマルチサーバ構成を利用する場合、管理サーバは Windows 系 OS である必要があります。

### (1) ハードウェア

#### 装置

Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズ(ブレードを除く)、  
DELL PowerEdge R760/R760xs  
R750/R750xs/R660/R660xs/R650/R650xs/R550/R450/R350 (Windows のみ)

最新の対応 H/W 状況は、以下をご参照ください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→ 動作環境  
→ 動作環境一覧

#### メモリ ディスク

7. 0 MB 以上  
1. 5 MB 以上

ただし、運用にあたっては作業ファイルやログファイルを生成するため、十分な空き容量が必要です。

#### 無停電電源装置

Smart-UPS 相当無停電電源装置

※LCD パネル付き Smart-UPS 装置に限定

### (2) ソフトウェア

#### OS

対応 OS については、下記サイトで確認してください。

[https://jpn.nec.com/esmpro\\_um/](https://jpn.nec.com/esmpro_um/)

→動作環境  
→対応OS一覧  
ESMPRO/UPSManager

#### 連携ソフトウェア

ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent  
ESMPRO/ServerManager

WebSAM AlertManager (ESMPRO/AlertManager)の通報機能を利用する場合に必要。

連携するには、本製品をセットアップする前にセットアップしておいてください。  
本製品のセットアップ後に連携したい場合は、本製品を一度アンインストールします。連携ソフトウェアをセットアップした後に本製品を再セットアップしてください。

連携ソフトウェアのダウンロードについて、下記サイトを参照してください。

[ダウンロード: サーバ管理 ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent | NEC](#)

#### ※注意：

ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントをインストールする場合、PowerChute Serial Shutdown など他の UPS 制御ソフトウェアはインストールしないでください。

### (3) ライセンス

ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントには以下の 2 種類の製品があります。

#### **ESMPRO/UPSManager Ver3.1 マルチサーバエージェント 基本ライセンス**

マルチサーバエージェント 2 台分のライセンスです。2 台目までのマルチサーバエージェントに使用してください。1 台の管理サーバに基本ライセンス 1 つが適用可能です。

#### **ESMPRO/UPSManager Ver3.1 マルチサーバエージェント 1 追加ライセンス**

マルチサーバエージェント 1 台分のライセンスです。3 台目からのマルチサーバエージェントに使用してください。1 台の管理サーバに 1 追加ライセンス 5 つまで適用可能です。

## 2. 4 PowerChute Serial Shutdown

PCSS は『ESMPRO/UPSManager Ver3.1 (PowerChute Serial Shutdown for Business セット)』に同梱されています。

PCSS は「PCSS エージェント」というコンポーネントで構成されます。導入時には「PCSS エージェント」との組み合わせを検討してインストールする必要があります。詳細は、PCSS のインストールガイドを参照してください。

### ■PowerChute Serial Shutdown エージェント (PCSS エージェント)

Smart-UPS のステータス監視機能、および長時間の停電時に Smart-UPS が保護するコンピュータのシステムシャットダウン機能を提供しています。このソフトウェアは、Smart-UPS システムに直接接続されている各サーバ上にインストールする必要があります。エージェントの設定は WebUI 機能により、リモートマシンからブラウザを使用して設定確認／変更が可能です。PCSS エージェントは、Windows 版と Linux 版が存在します。

UM サーバは、PCSS エージェントをインストールしたマシンにインストールします。

PowerChute Serial Shutdown エージェント関連図

※PCSS エージェントは WebUI 機能によりブラウザで情報の参照／設定を行います。  
<<https://IP アドレス:6547>>  
(「IP アドレス」は PCSS エージェントをインストールしたマシンの IP アドレスを指定)

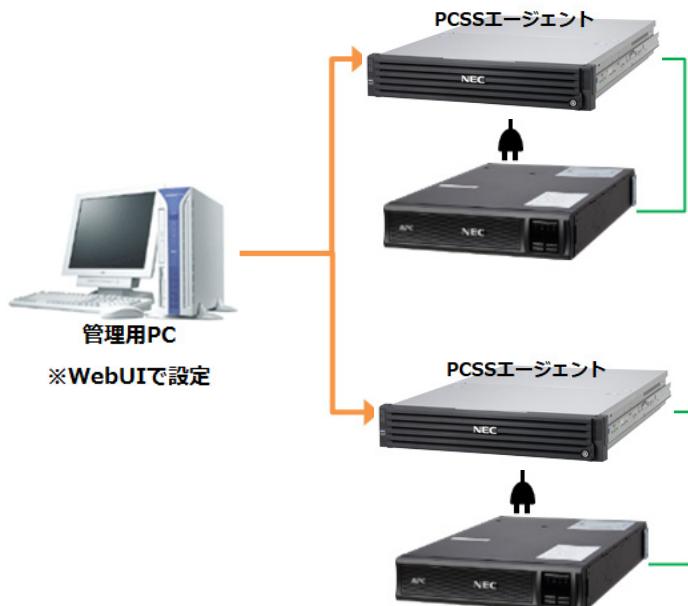


図2. 4-1

## 2.5 システム構成例とインストールコンポーネント

ESMPRO/UPSManger はネットワーク上に存在する UPS 管理ソフトウェア PowerChute Serial Shutdown (Windows/Linux 版) と連携し、各 UPS の運用を制御し、統合管理を実現します。

ESMPRO/UPSManger や PowerChute Serial Shutdown は、いくつかのコンポーネントで構成されており、導入時には各コンポーネントをどのような組み合わせでインストールすればよいかの検討が必要です。

### 2.5.1 スタンドアロン構成

#### 2.5.1.1 Windows の場合

サーバ OS が Windows であれば、サーバ本体に「UM サーバ」「PCSS エージェント」をインストールして UPS の制御／管理を行うことが可能です。Hyper-V 環境の場合には、ペアレント OS にインストールしてください。

※単体構成の場合でも TCP/IP によるネットワーク接続が行えることが必要になります。

| マシン種別 | インストールするコンポーネント       | 備考  |
|-------|-----------------------|---|
| サーバ   | UM サーバ<br>PCSS エージェント | ■UPS とサーバ間の接続は、シリアル接続と USB 接続のどちらかを選択可能 (PCSS のインストールガイドをご確認ください) |

表2. 5-1

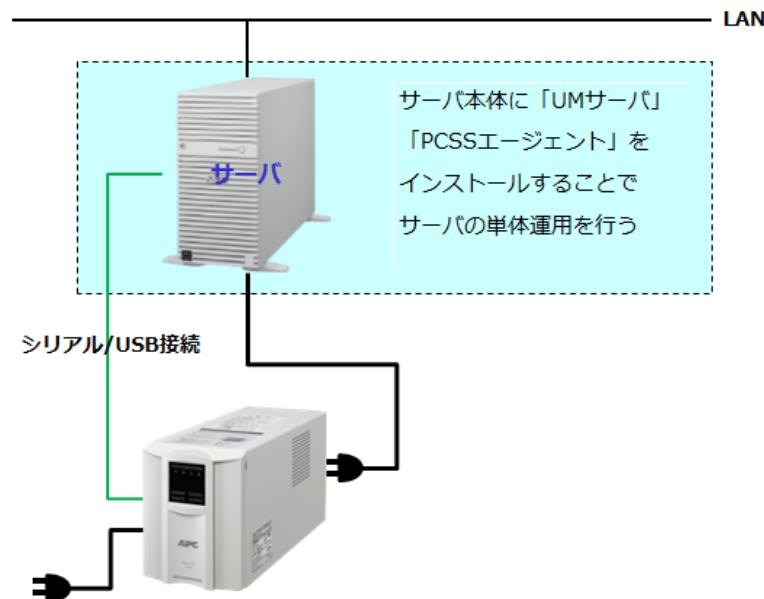


図2. 5-1

### 2.5.1.2 Linux の場合

サーバOSがLinuxの場合であれば、サーバに全コンポーネントをインストールすることができません。サーバにはUPSを制御するコンポーネントをインストールし、UPSを管理するコンポーネントはマネージャにインストールしてください。

| マシン種別 | インストールするコンポーネント            | 備考 |
|-------|----------------------------|----|
| サーバ   | UMサーバ（Linux）<br>PCSSエージェント |    |
| マネージャ | UMマネージャ                    |    |

表2. 5-2

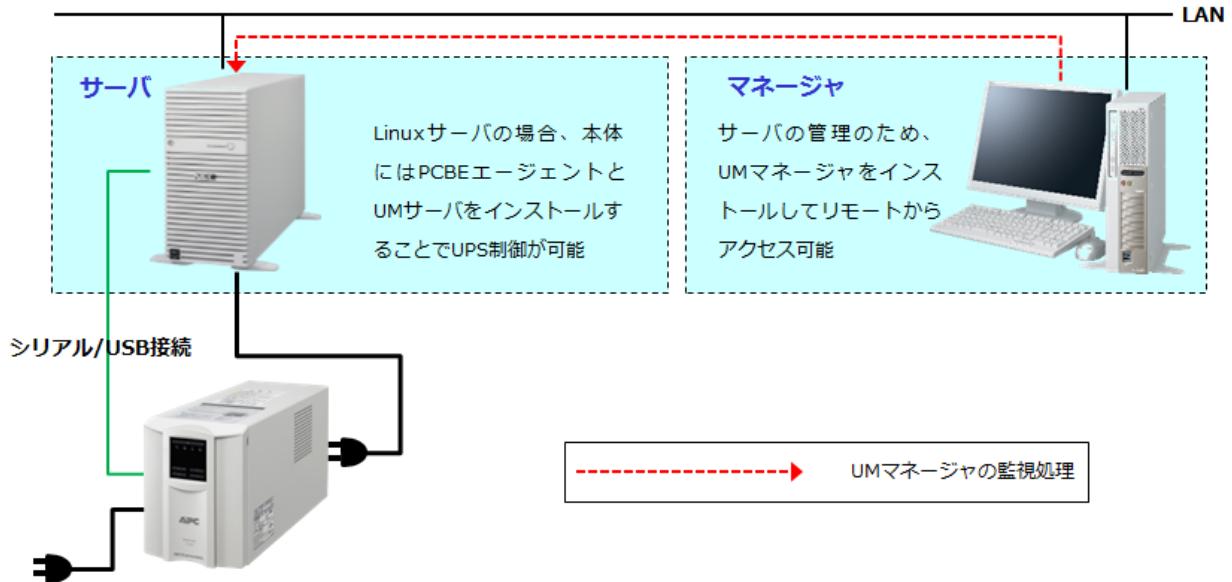


図2. 5-2

## 2.5.2 マルチサーバ構成

一台のUPSに複数台のサーバを接続して運用する構成を、マルチサーバ構成と言います。ESMPRO/UPSManagerにおけるマルチサーバ構成には、以下の二種類があります。

- ・ESMPRO/UPSManagerマルチサーバエージェント(UM MSA)を使用するマルチサーバ構成
- ・UPSインターフェース拡張ボードを使用するマルチサーバ構成

また、マルチサーバ構成は、使用するUPS装置の種別によって使用するコンポーネントが変わります。

### 2.5.2.1 LCDパネル付きSmart-UPSの場合

#### (4) UM MSAの場合

UM MSAを使用するマルチサーバ構成にした場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをインストールしてください。

| マシン種別    | インストールするコンポーネント     | 備考  |
|----------|---------------------|---|
| 管理サーバ    | UMサーバ<br>PCSSエージェント | ■UM MSAを使用するマルチサーバ構成の場合、UMサーバにはWindowsサーバのみ使用可                          |
| UMエージェント | UM MSA              | ■エージェントの台数に応じたライセンスを使用してください。<br><下図の構成例の場合><br>基本ライセンス：1<br>1追加ライセンス：1 |

表2. 5-3

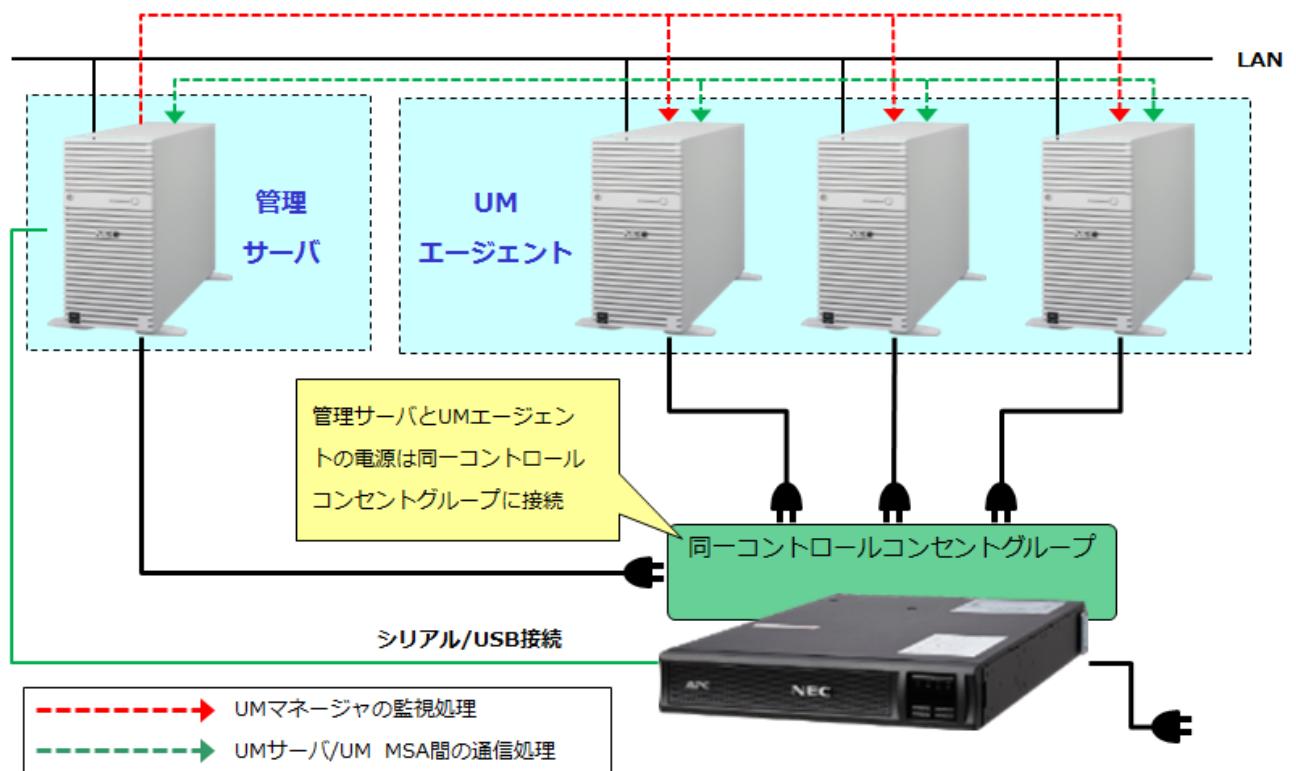


図2. 5-3

(5) UPS インタフェース拡張ボードを使用する場合

UPS インタフェース拡張ボードを使用し、マルチサーバ構成にした場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをインストールしてください。

| マシン種別   | インストールするコンポーネント       | 備考  |
|---------|-----------------------|---|
| マスタサーバ  | UM サーバ<br>PCSS エージェント |   |
| スレーブサーバ | UM サーバ<br>PCSS エージェント | ■スレーブサーバはUPS インタフェース拡張ボードでシリアル接続してください。                                     |
| マネージャ   | UM マネージャ              | ■マスタサーバが Windows OS の場合、マネージャはマスタサーバで兼用可能です。その場合、UM マネージャをインストールする必要はありません。 |

表2. 5-4

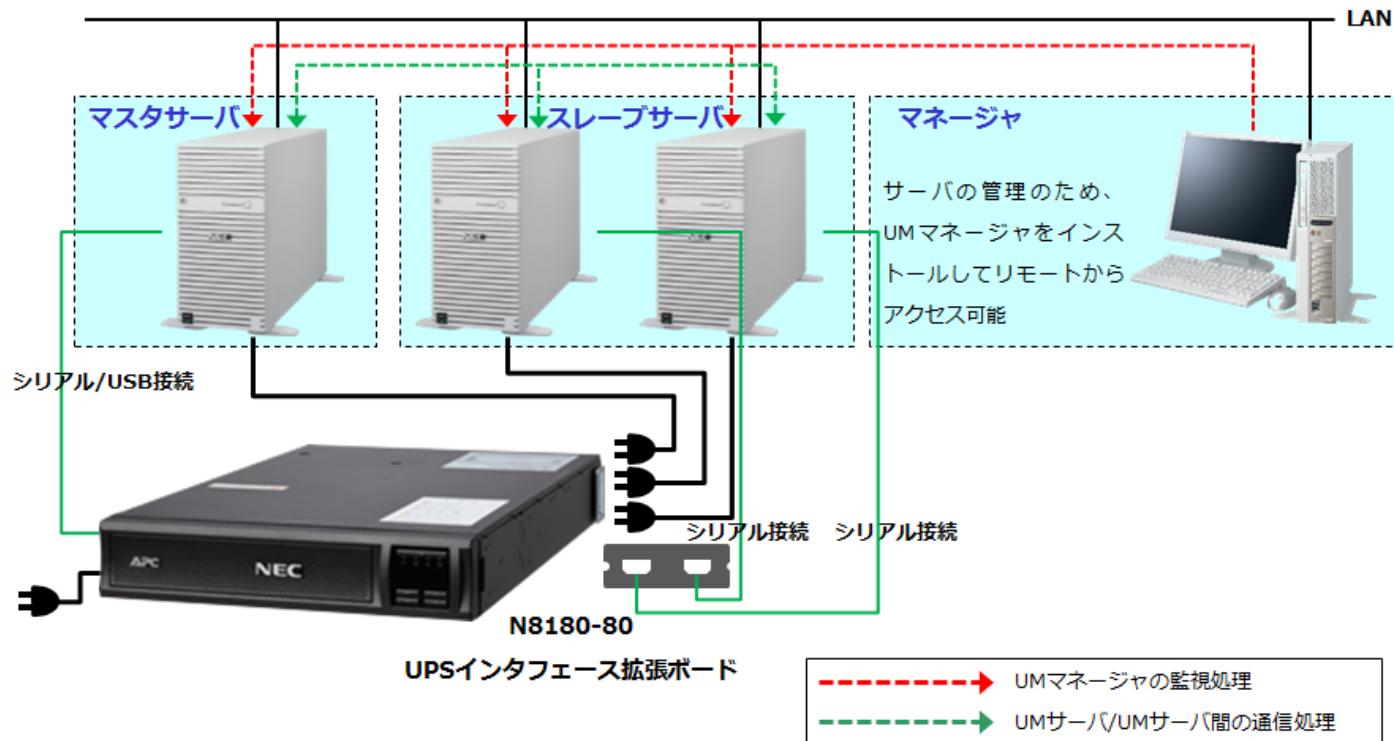


図2. 5-4

## 2.5.3 LCD パネル有無混在のシステム構成

管理対象となる UPS に LCD パネルの有無が混在した環境において、複数台のサーバをマネージャで管理する場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをインストールしてください。

| マシン種別  | インストールするコンポーネント          | 備考   |
|--------|--------------------------|--|
| マスタサーバ | UM サーバ<br>PCSS エージェント ※1 |  |
| サーバ    | UM サーバ<br>PCSS エージェント ※1 |  |
| マネージャ  | UM マネージャ                 | ■マスタサーバ、サーバが Windows OS の場合、マネージャは上記のサーバで兼用可能です。その場合、UM マネージャをインストールする必要はありません |

表2. 5-5

※1 UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合（マスタサーバ／サーバ）には、PCSS は必ず『マスタサーバ』としてセットアップしてください。

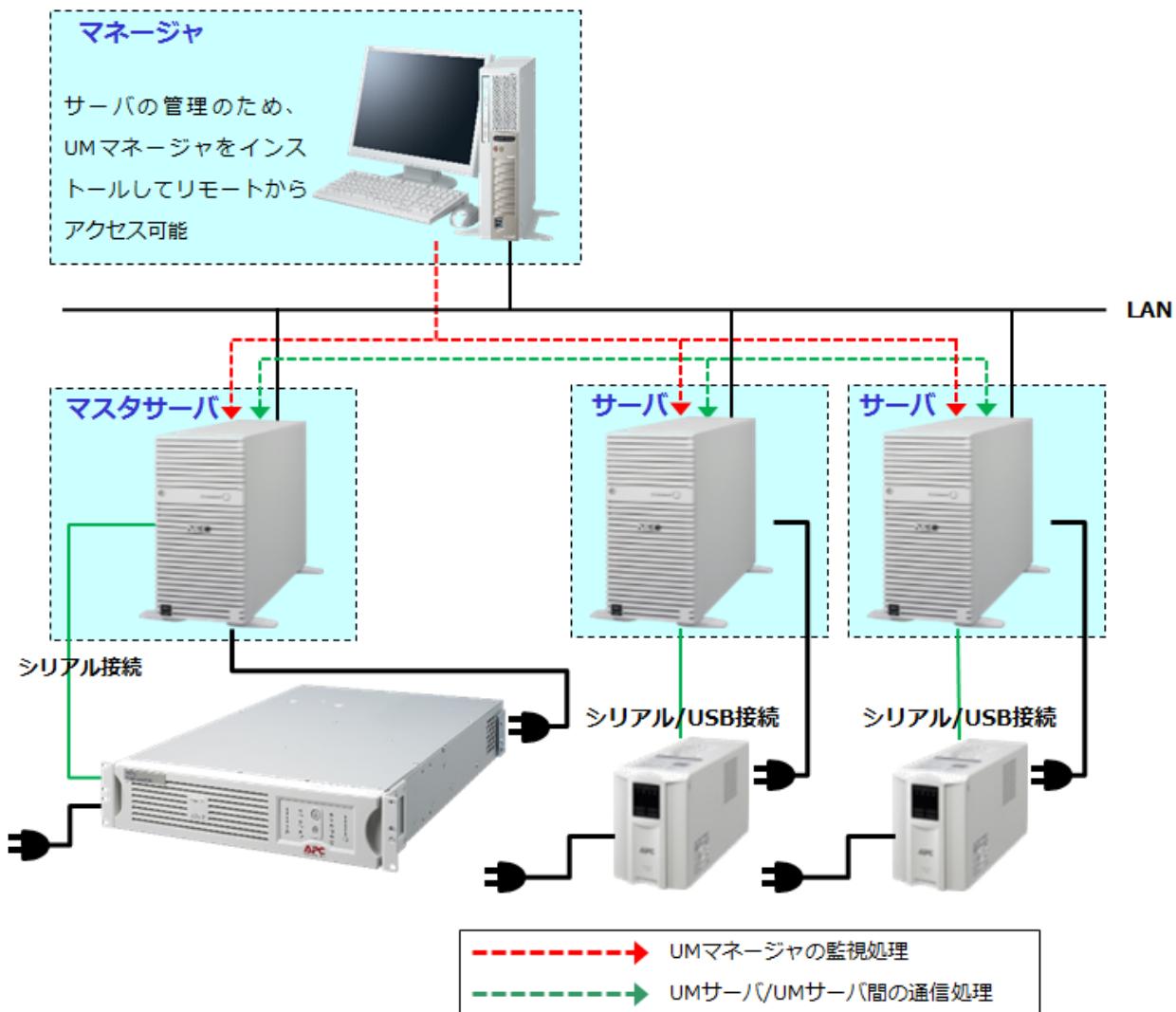


図2. 5-5

### 3. セットアップの方法

#### == ESMPRO/UPSManagerをインストールする前に確認してください ==

- ◆UPSを使って自動運転を行う場合は、自動運転を行うサーバ装置のBIOSの設定で、AC-LINK (AC運動モード) を「Power ON」(サーバ機種により「Always Power On」の場合があります) にしていただく必要があります。BIOSの設定方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。  
なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」あるいは「Automatic Power-On」と記載されている場合があります。
- ◆古いバージョンのESMPRO/UPSManagerがすでにインストールされている場合は、インストールされているバージョンのESMPRO/UPSManagerのセットアップカードを参照して先にアンインストールを実施してください。その後、本製品のインストールを実施してください。
- ◆ESMPRO/UPSManagerをインストールする前に、連携して使用するPowerChute Serial Shutdownをインストールしてください。以降の手順はPCSSがインストール済であることを前提にした手順です。PCSSのインストール方法は、PCSSのインストールガイドを参照してください。

#### 3. 1 ESMPRO/UPSManager サーバのインストール

UPSを接続して運用するサーバへのインストールをサーバインストールといいます。インストール手順はOSにより異なりますので、ご使用の環境に応じて下記手順を参照してインストールを行ってください。

- 3.1.1 Windowsサーバへのインストール
- 3.1.2 Linuxサーバへのインストール

##### 3. 1. 1 Windows サーバへのインストール

Windowsサーバへインストールする場合の手順です。Hyper-V環境の場合には、ペアレントOSにインストールしてください。別バージョンのESMPRO/UPSManagerサーバがインストールされている場合は、アンインストールを実行してから本製品をインストールしてください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCD ドライブに挿入します。
- (3) CD ドライブの『umsetup.exe』を起動します。  
※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれるWindows OSにおいて、「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「実行」を選択してください。

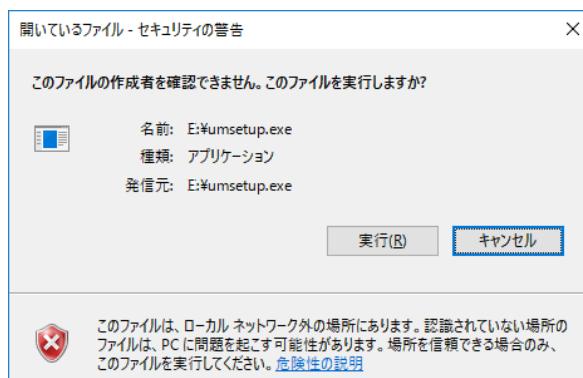


図3. 1-1

- (4) 起動したセットアップツールで「サーバ」の『インストール』ボタンをクリックします。

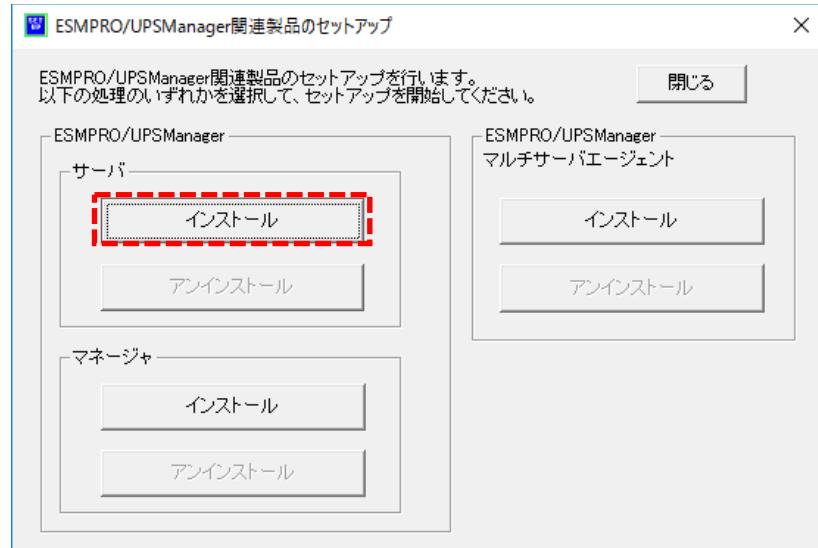


図3. 1-2

※ESMPRO/ServerAgentServiceまたはESMPRO/ServerAgentがインストールされていない場合、その旨のメッセージが表示されます。

通報等のESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent連携機能を利用する場合には、ESMPRO/UPSMangerをインストールする前にESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentをインストールする必要があります。ここでは「いいえ」を選びESMPRO/UPSMangerのインストールを中止してください。そしてESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentをインストール後にはじめからESMPRO/UPSMangerのインストールをやりなおしてください。

ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent連携機能を利用しない場合は、上記メッセージで「はい」を選択してそのままインストールを継続してください。以降の操作は画面の指示に従ってインストールしてください。

- (5) インストールが完了すると『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックしてください。

- (6) これでESMPRO/UPSMangerのインストールは終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

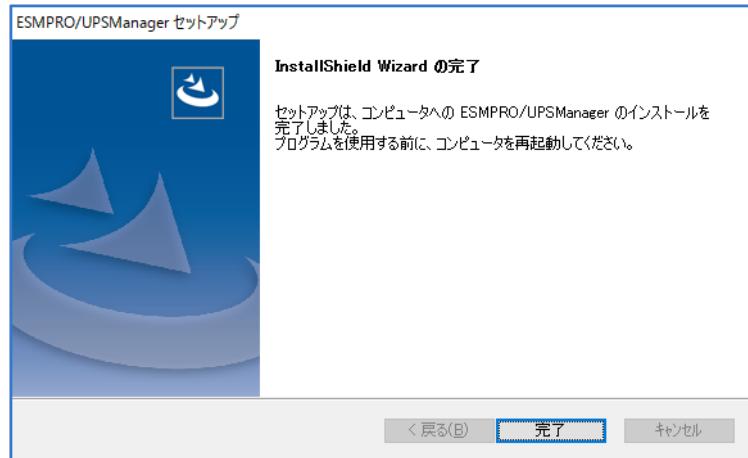


図3. 1-3

- (7) アップデートの適用が必要な場合、ここでアップデートの適用を実施してください。ESMPRO/UPSMangerをインストールした環境に最新のアップデート(2025/03時点ではアップデートモジュールはありません)を適用します。

※UPS インタフェース拡張ボードを使用し、PowerChute Serial Shutdown のマルチサーバ構成で運用されるお客様で、エクスプレス通報／ALIVE 通報をご利用になる場合は「第6章 スレーブサーバのエクスプレス通報／ALIVE 通報設定について」も参照してください。

### 3.1.2 Linux サーバへのインストール

Linux サーバにインストールする方法を以下に記載いたします。

(1) インストールを行うLinuxサーバへrootでログインしてください。リモートからLinuxサーバへtelnet等を使用してログインする場合には、一般ユーザでログイン後、「su -」コマンドを実行してrootアカウントに変更してください。

(2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体を挿入してCD ドライブをマウントしてください。

※以降、CD ドライブのマウントポイントについてはご使用の環境に合わせて適宜読み替えてください。

例) # mount /dev/cdrom /media/cdrom

(3) 以下のコマンドを実行してインストールします。

# rpm -ihv /media/cdrom/esmproum-3.1.0-1.0.i686.rpm

(4) CD ドライブをアンマウントし、ESMPRO/UPSManagerのCD媒体を取り出します。

例) # umount /dev/cdrom

(5) アップデート適用が必要な場合、ここでアップデート適用を行ってください。

(6) サーバを再起動するか、以下の方法でサービスを起動してください。

# systemctl start upsmsvc.service

※UPS インタフェース拡張ボードを使用し、PowerChute Serial Shutdown のマルチサーバ構成で運用されるお客様で、エクスプレス通報／ALIVE 通報をご利用になる場合は「第6章 スレーブサーバのエクスプレス通報／ALIVE 通報設定について」も参照してください。

※RedHat Enterprise Linux 環境へESMPRO/UPSManager をインストールする際、実行に必要なパッケージの確認及びインストールを行ってください。

<必要パッケージ名(バージョン番号は環境に合わせてお読み替え下さい)>

- libgcc-x.x.x-xx.elx.i686.rpm
- nspr-x.xx.x-x.elx\_x.i686.rpm
- nss-util-x.xx.x-x.elx.i686.rpm
- nss-softokn-freebl-x.xx.x-x.elx.i686.rpm
- glibc-x.xx.x-xxx.elx.i686.rpm

上記のパッケージがインストールされていない場合以下のメッセージが表示され、正しくインストールができない場合もしくはサービス起動が正常に行えない場合があります。

<メッセージ例>

エラー: 依存性の欠如:

```
libc.so.6 ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libc.so.6(GLIBC_2.0) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libc.so.6(GLIBC_2.1) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libc.so.6(GLIBC_2.3.4) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libc.so.6(GLIBC_2.4) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libpthread.so.0 ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libpthread.so.0(GLIBC_2.0) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
libpthread.so.0(GLIBC_2.1) ￥は esmproum-3.1.0-1.0.i686 に必要とされています
```

以下、RedHat Enterprise Linux 8.1 の場合を対応例に記載します。なお、パッケージのバージョンは、OS のバージョンによって異なることがあるため、バージョン番号は環境に合わせてお読み替え下さい。

【例】

① DVD-ROM ドライブにRedHat Enterprise Linux 8.1のDVD 媒体を挿入し「mount」コマンドにてDVD-ROM ドライブをマウントします。

例) # mount /dev/cdrom /media

② DVD 媒体内のパッケージ格納ディレクトリへ移動し、インストールします。

# cd /media/BaseOS/Packages

# rpm -ihv libgcc-8.3.1-4.5.el8.i686.rpm glibc-2.28-72.el8.i686.rpm

# cd /media/AppStream/Packages

# rpm -ihv nspr-4.21.0-2.el8\_0.i686.rpm nss-util-3.44.0-8.el8.i686.rpm nss-softokn-freebl-3.44.0-8.el8.i686.rpm

### 3.2 ESMPRO/UPSManager サーバのアンインストール

アンインストール手順はOSにより異なりますので、ご使用の環境に応じて下記手順を参照してアンインストールを行ってください。

- 3.2.1 Windows サーバでのアンインストール
- 3.2.2 Linux サーバでのアンインストール

※PCSSがインストールされている場合、ESMPRO/UPSManagerサーバのアンインストール完了後にPCSSのアンインストールを行ってください。

PCSSのアンインストール方法は、PCSSのインストールガイドを参照してください。

#### 3.2.1 Windows サーバでのアンインストール

アンインストールを行う前には、あらかじめ全てのアプリケーションを終了しておいてください。

(1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。

(2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCD ドライブに挿入します。

(3) CD ドライブの『umsetup.exe』を起動します。

※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれるWindows OSにおいて「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「続行」を選択してください。

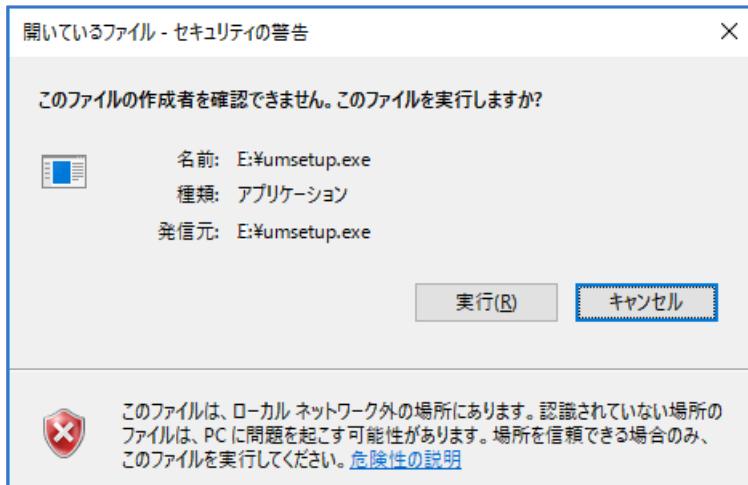


図3. 2-1

(4) 起動したセットアップツールでサーバの『アンインストール』ボタンをクリックしてください。

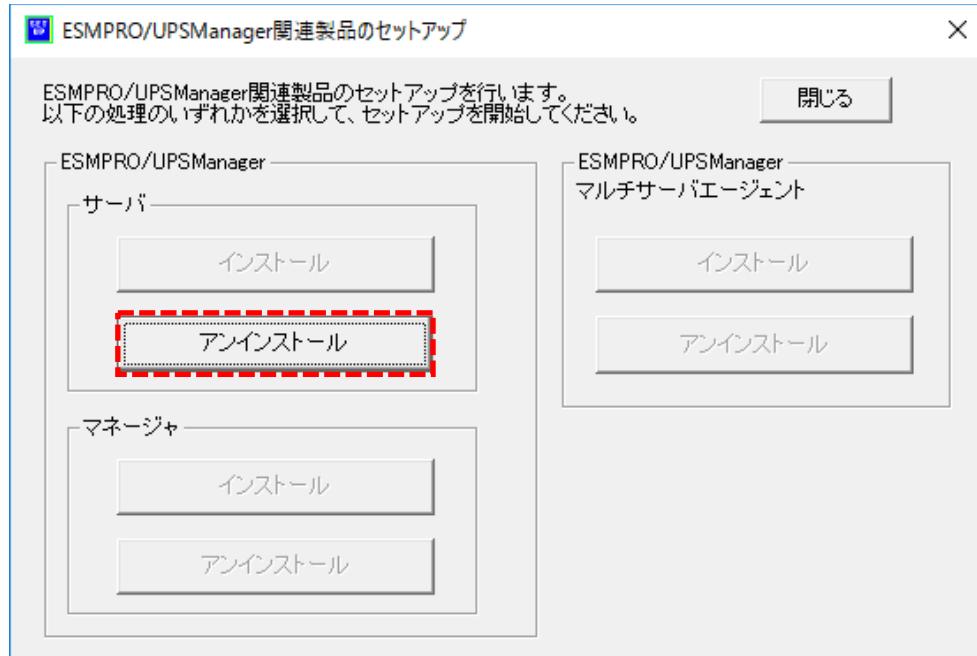


図3. 2-2

(5) 以下のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

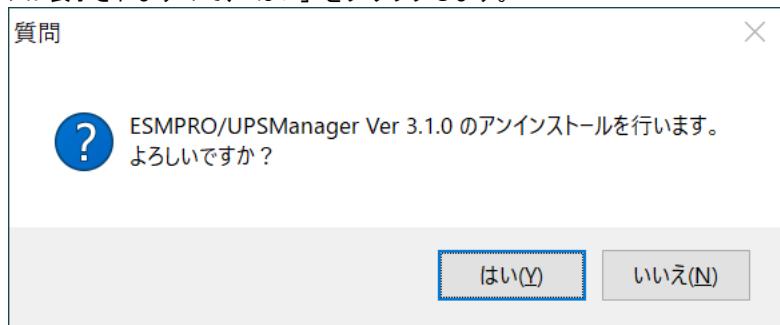


図3. 2-3

(6) 以下の『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」をクリックしてください。これで ESMPRO/UPSManagerのアンインストールが終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

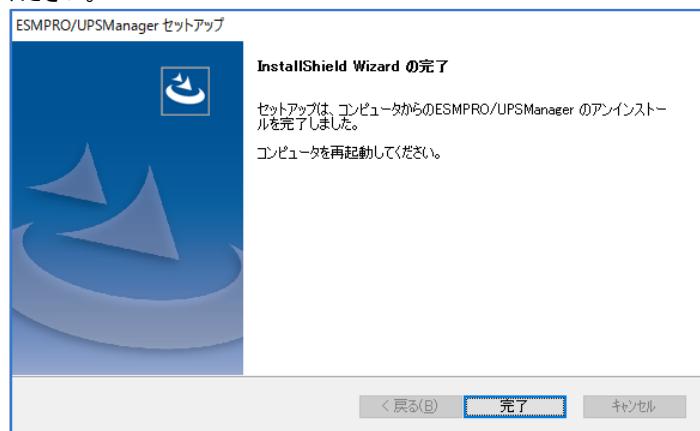


図3. 2-4

### 3. 2. 2 Linux サーバでのアンインストール

(1) アンインストールを行うLinuxサーバへrootでログインしてください。リモートからLinuxサーバへtelnetを使用してログインする場合には、一般ユーザでログイン後、「su -」コマンドを実行してrootアカウントに変更してください。

(2) 以下のコマンドを実行して、アンインストールします。  
# rpm -e esmproum

(3) サーバを再起動します。

### 3.3 ESMPRO/UPSManager マネージャのインストール

サーバを管理するマネージャへのインストールをマネージャインストールといいます。インストール手順は以下の通りです。別バージョンのESMPRO/UPSManagerマネージャがインストールされている場合は、アンインストールを実行してから本製品をインストールしてください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCD ドライブに挿入します。
- (3) CD ドライブの『umsetup.exe』を起動します。  
※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれるWindows OSにおいて、「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「実行」を選択してください。

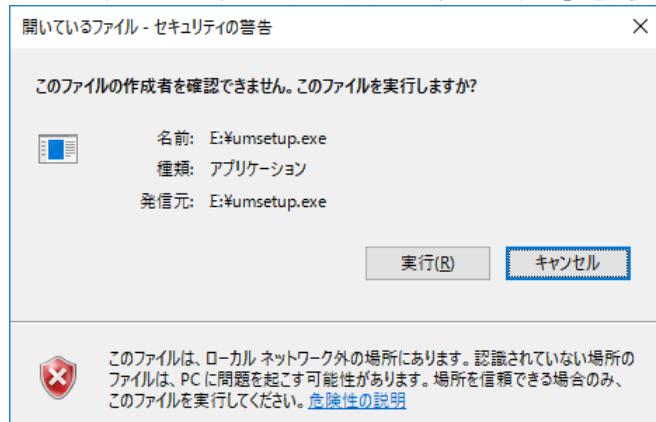


図3. 1-1

- (4) 起動したセットアップツールで『マネージャのインストール』ボタンをクリックしてください。

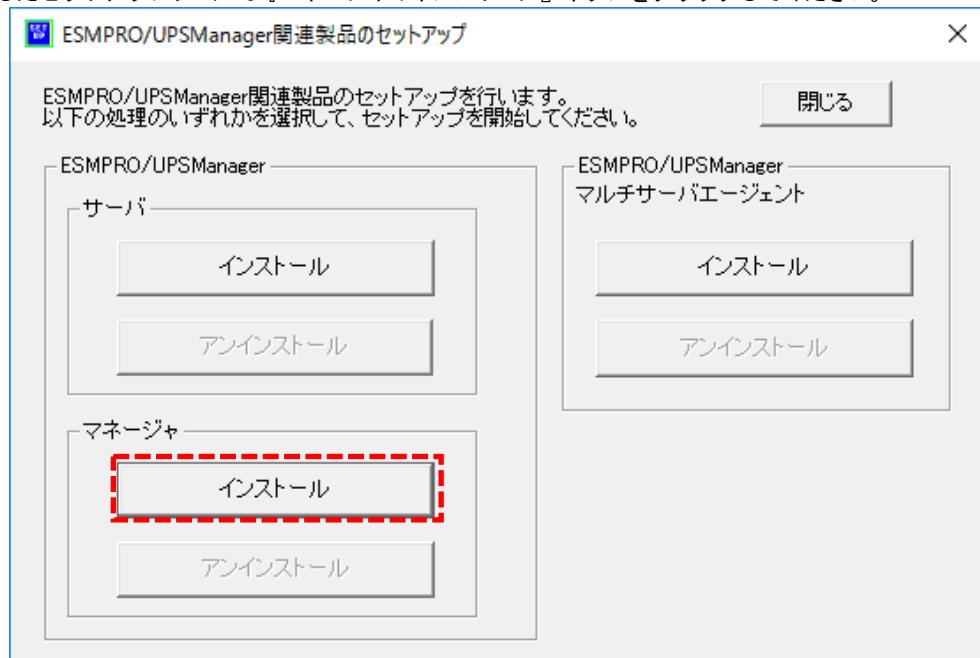


図3. 3-2

- (5) 以降の操作は画面の指示に従ってインストールしてください。
- (6) インストールが完了すると『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックしてください。これでESMPRO/UPSManagerのインストールは終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

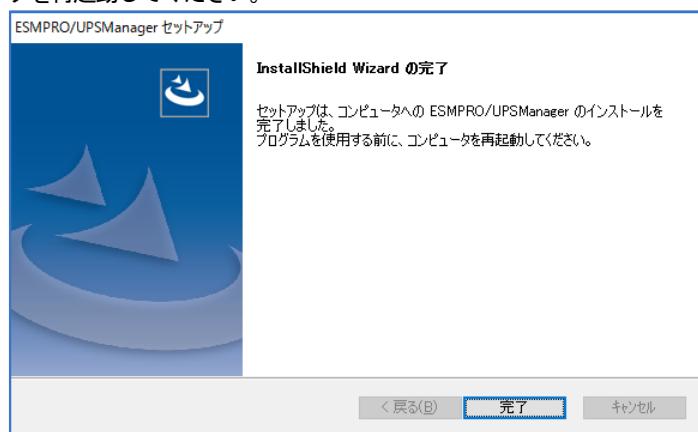


図3. 3-3

- (7) アップデートの適用が必要な場合、ここでアップデートの適用を実施してください。ESMPRO/UPSManagerマネージャをインストールした環境に最新のアップデート(2025/03時点ではアップデートモジュールはありません)を適用します。

### 3.4 ESMPRO/UPSManager マネージャのアンインストール

アンインストールを行う前には、あらかじめ全てのアプリケーションを終了しておいてください。

※PCSSがインストールされている場合、ESMPRO/UPSManagerマネージャのアンインストール完了後にPCSSのアンインストールを行ってください。

PCSSのアンインストール方法は、PCSSのインストールガイドを参照してください。

- (1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCD ドライブに挿入します。
- (3) CD ドライブの『umsetup.exe』を起動します。  
※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれる Windows OSにおいて、「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「続行」を選択してください。

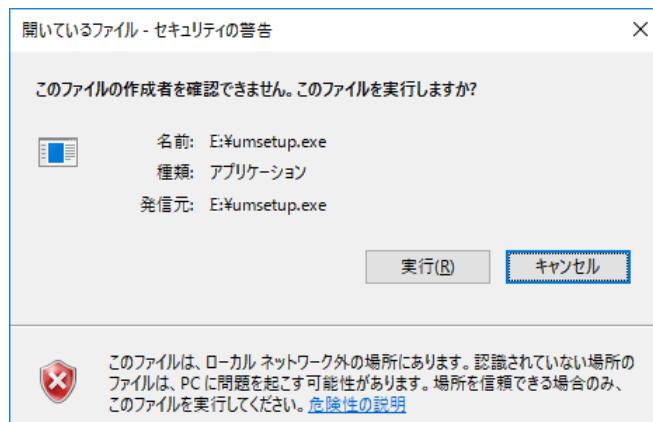


図3. 4-1

- (4) 起動したセットアップツールで『マネージャのアンインストール』ボタンをクリックしてください。

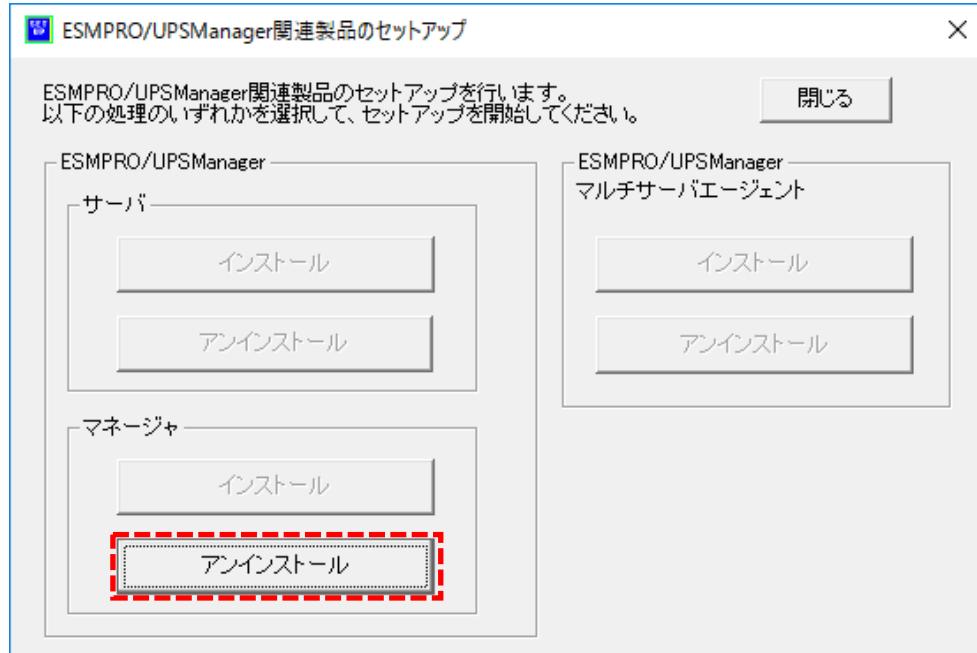


図3. 4-2

- (5) 以下のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。

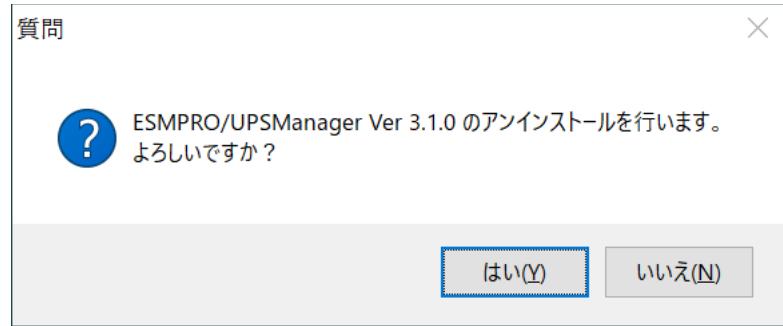


図3. 4-3

- (6) 以下の『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」をクリックしてください。これで ESMPRO/UPSManagerのアンインストールが終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

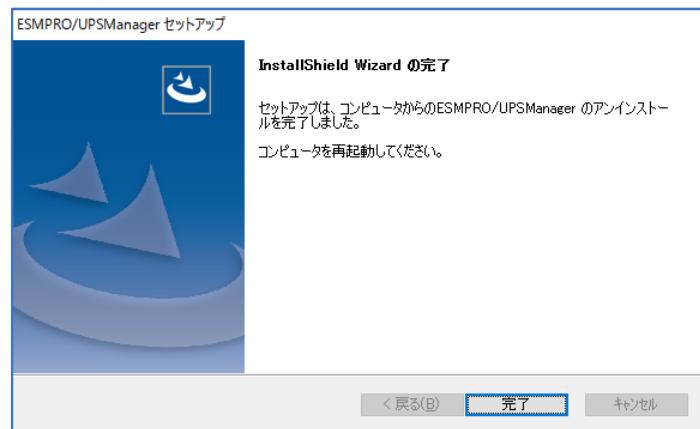


図3. 4-4

### 3.5 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのインストール

管理サーバからシャットダウン制御が行われるUMエージェントのインストール手順を説明します。インストール手順はOSにより異なりますので、ご使用の環境に応じて下記手順を参照してインストールを行ってください。

- 3.5.1 Windowsサーバへのインストール
- 3.5.2 Linuxサーバへのインストール

#### 3.5.1 Windows サーバへのインストール

Windows OS の場合には、以下の手順で UM MSA をインストールしてください。別バージョンの UM MSA がインストールされている場合は、アンインストールを実行してから本製品をインストールしてください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCD ドライブに挿入します。
- (3) CD ドライブの『umsetup.exe』を起動します。  
※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれるWindows OSにおいて、「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「実行」を選択してください。

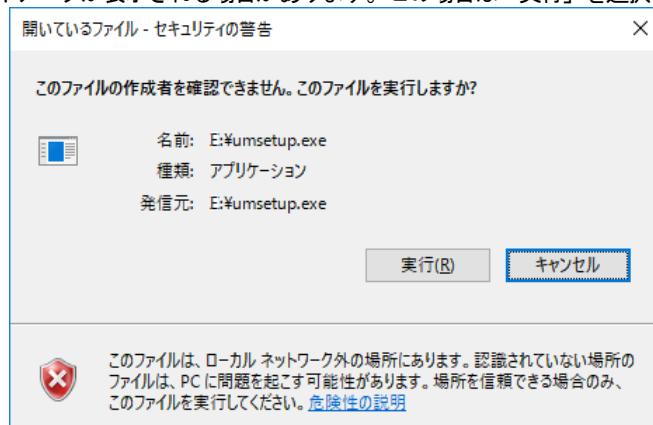


図3. 5-1

- (4) 起動したセットアップツールでESMPRO/UPSMangerマルチサーバエージェントの『インストール』ボタンをクリックしてください。

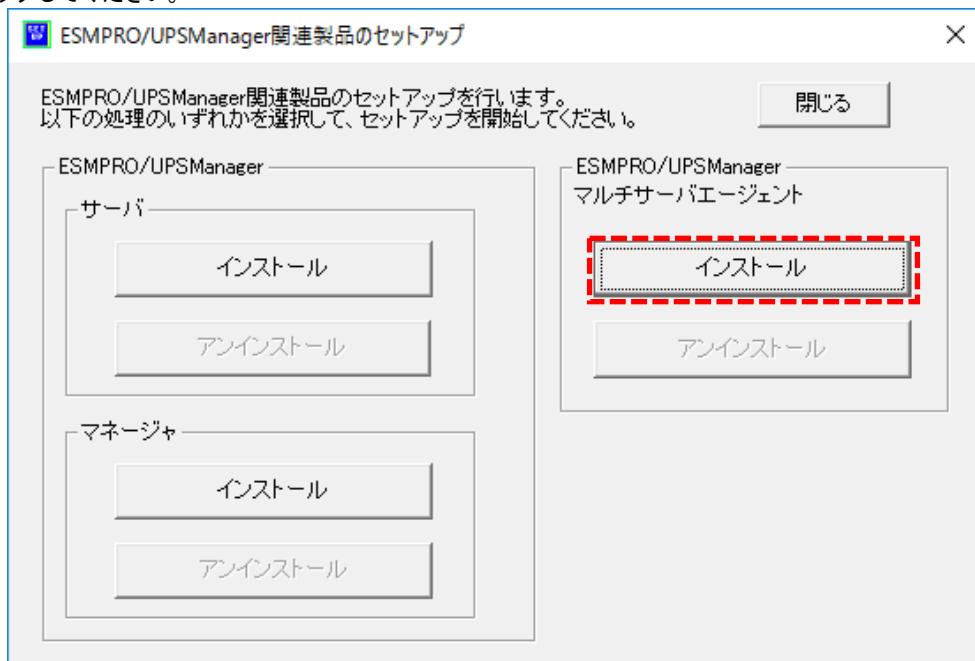


図3. 5-2

- (5) 以降の操作は画面の指示に従ってインストールしてください。

- (6) インストールが完了すると『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックしてください。これでUM MSAのインストールは終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

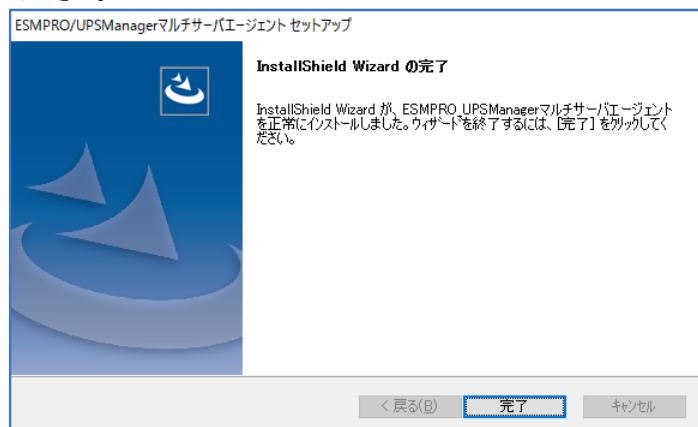


図3. 5-3

### 3.5.2 Linux サーバへのインストール

以下の手順で UM MSA をインストールしてください。

(1) インストールを行うLinuxサーバへrootでログインしてください。リモートからLinuxサーバへtelnet等を使用してログインする場合には、一般ユーザでログイン後、「su -」コマンドを実行してrootアカウントに変更してください。

(2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体を挿入してCD ドライブをマウントしてください。  
※以降、CD ドライブのマウントポイントについてはご使用の環境に合わせて適宜読み替えてください。  
例) # mount /dev/cdrom /media/cdrom

(3) 以下のコマンドを実行してインストールします。  
# rpm -ihv /media/cdrom/esmproum\_m-3.1.0-1.0.i686.rpm

(4) CD ドライブをアンマウントし、ESMPRO/UPSManagerのCD媒体を取り出します。  
例) # umount /dev/cdrom

(5) アップデート適用が必要な場合、ここでアップデート適用を行ってください。

(6) サーバを再起動するか、以下の方法でサービスを起動してください。  
# systemctl start upsm\_msvc.service

※RedHat Enterprise Linux 環境へ UM MSA をインストールする際、  
は実行に必要なパッケージの確認及びインストールを行ってください。

<必要パッケージ名(バージョン番号は環境に合わせてお読み替え下さい)>

- libgcc-x.x.x-xx.elx.i686.rpm
- nspr-x.xx.x-x.elx\_x.i686.rpm
- nss-util-x.xx.x-x.elx.i686.rpm
- nss-softokn-freebl-x.xx.x-x.elx.i686.rpm
- glibc-x.xx-x.xxx.elx.i686.rpm

上記のパッケージがインストールされていない場合以下のメッセージが表示され、正しくインストールができない場合もしくはサービス起動が正常に行えない場合があります。

<メッセージ例>

エラー: 依存性の欠如:

libc.so.6 は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libc.so.6(GLIBC\_2.0) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libc.so.6(GLIBC\_2.1) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libc.so.6(GLIBC\_2.3.4) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libc.so.6(GLIBC\_2.4) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libpthread.so.0 は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libpthread.so.0(GLIBC\_2.0) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています  
libpthread.so.0(GLIBC\_2.1) は esmproum\_m-3.1.0-1.0.i386 に必要とされています

以下、RedHat Enterprise Linux 8.1 の場合を対応例に記載します。なお、パッケージのバージョンは、OS のバージョンによって異なることがあるため、バージョン番号は環境に合わせてお読み替え下さい。

【例】

① DVD-ROM ドライブにRedHat Enterprise Linux 8.1のDVD 媒体を挿入し「mount」コマンドにてDVD-ROM ドライブをマウントします。

例) mount /dev/cdrom /media

② DVD 媒体内のパッケージ格納ディレクトリへ移動し、インストールします。

# cd /media/BaseOS/Packages  
# rpm -ihv libgcc-8.3.1-4.5.el8.i686.rpm glibc-2.28-72.el8.i686.rpm

# cd /media/AppStream/Packages  
# rpm -ihv nspr-4.21.0-2.el8\_0.i686.rpm nss-util-3.44.0-8.el8.i686.rpm nss-softokn-freebl-3.44.0-8.el8.i686.rpm

### 3.6 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのアンインストール

アンインストール手順はOSにより異なります。ご使用の環境に応じて下記手順を参照してアンインストールを行ってください。

- 3.6.1 Windows サーバでのアンインストール
- 3.6.2 Linux サーバでのアンインストール

#### 3.6.1 Windows サーバでのアンインストール

アンインストールを行う前には、あらかじめ全てのアプリケーションを終了しておいてください。

(1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。

(2) 『ESMPRO/UPSManager Ver3.1』のCD媒体をCDドライブに挿入します。

(3) CDドライブの『umsetup.exe』を起動します。

※「ユーザー アカウント制御」機能が含まれるWindows OSにおいて「ユーザー アカウント制御」を有効化している場合、以下の確認ダイアログが表示される場合があります。この場合は「続行」を選択してください。

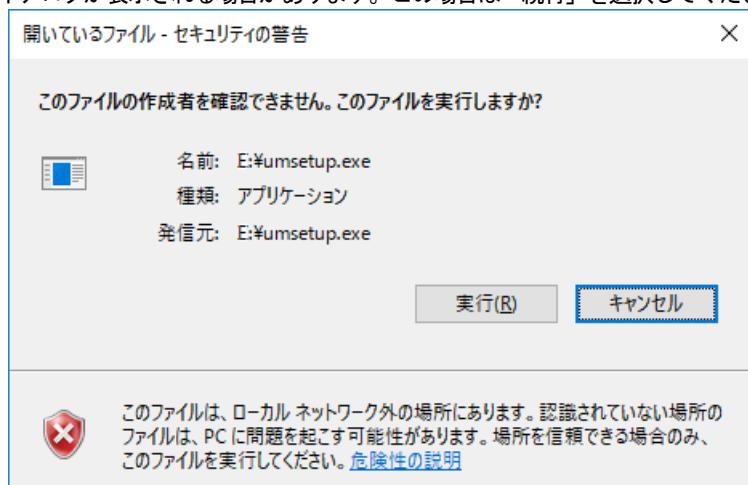


図3. 6-1

起動したセットアップツールでESMPRO/UPSManagerマルチサーバエージェントの『アンインストール』ボタンをクリックしてください。

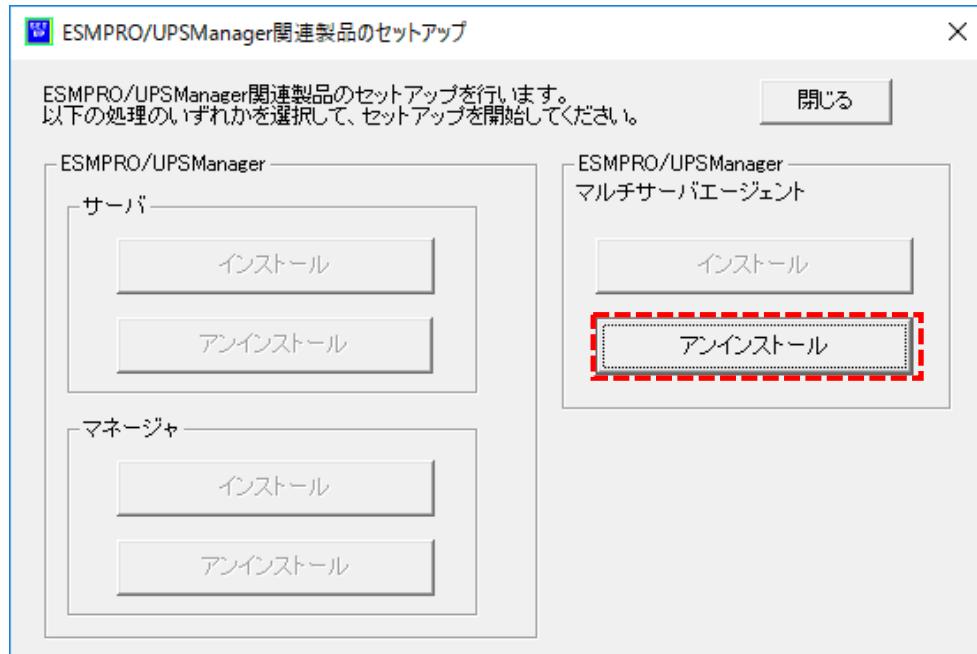


図3. 6-2

(4) 以下のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



図3. 6-3

(5) 以下の『InstallShield Wizardの完了』画面が表示されますので、「完了」をクリックしてください。これで ESMPRO/UPSMangerのアンインストールが終了しました。CD媒体を取り出し、画面の指示に従ってコンピュータを再起動してください。

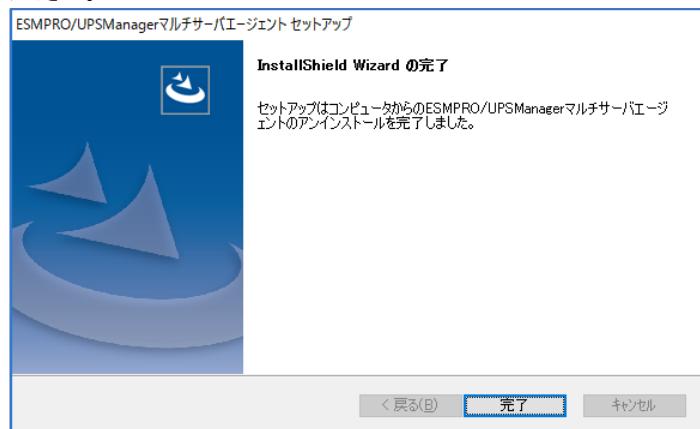


図3. 6-4

### 3. 6. 2 Linux サーバでのアンインストール

(1) アンインストールを行うLinuxサーバへrootでログインしてください。リモートからLinuxサーバへtelnetを使用してログインする場合には、一般ユーザでログイン後、「su -」コマンドを実行してrootアカウントに変更してください。

(2) 以下のコマンドを実行して、本体をアンインストールします。  
# rpm -e esmproum\_m

(3) サーバを再起動します。

## 4. 環境設定

マルチサーバ構成で運用する場合や、マネージャから各サーバの運用を監視するためには、以下の設定を行ってください。

### ※注意：

GUIで登録するサーバ名の情報は、DNSサーバやhostsファイルなどによる名前解決が可能となっている必要があります。サーバ名には、IPアドレスを指定することはできません。

### 4. 1 スタンドアロン構成時の設定

スタンドアロンの構成の場合の設定手順を以下に記載します。UMサーバをインストールしたOSによって手順が変わります。

#### 4. 1. 1 UMサーバ(Windows)のGUIへのサーバ登録

全てのコンポーネントをWindows管理サーバ上にインストールした場合には、設定操作は必要ありません。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager マネージャ(GUI)を起動すると、自サーバが登録済の状態で稼働しており、設定は不要です。



図4. 1-1

#### 4.1.2 UM サーバ (Linux) の GUI へのサーバ登録

管理サーバにインストールする UM サーバ (Linux) は、サービスモジュールのみで構成されているため、UM サーバを管理するためのマネージャが必要です。マネージャで UM サーバを管理するためには、以下の手順で UM マネージャの GUI に管理サーバを登録してください。

以下の操作は、UM マネージャをインストールしたマネージャ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager マネージャ (GUI) を起動してください。

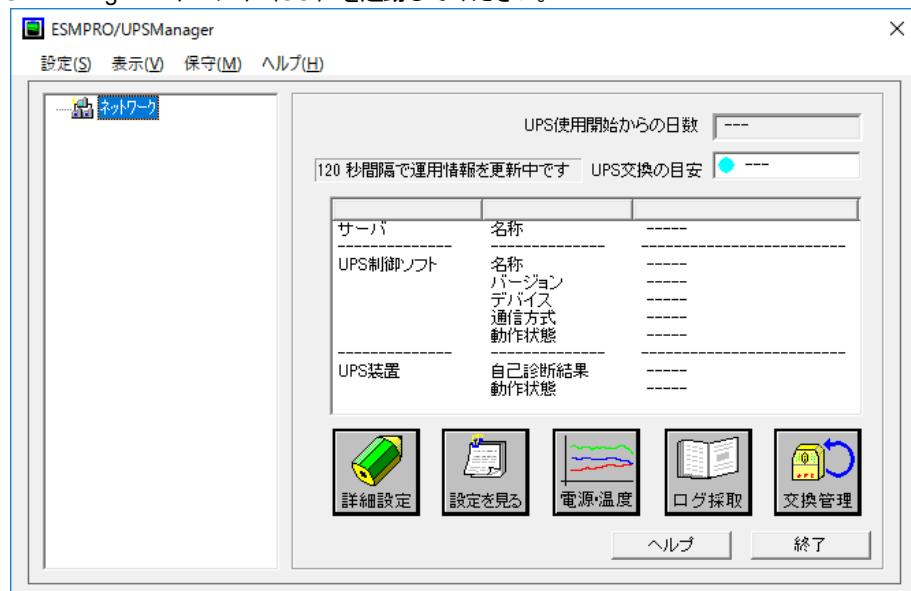


図4. 1-2

- (3) [設定] → [サーバの追加・削除] を選択してください。

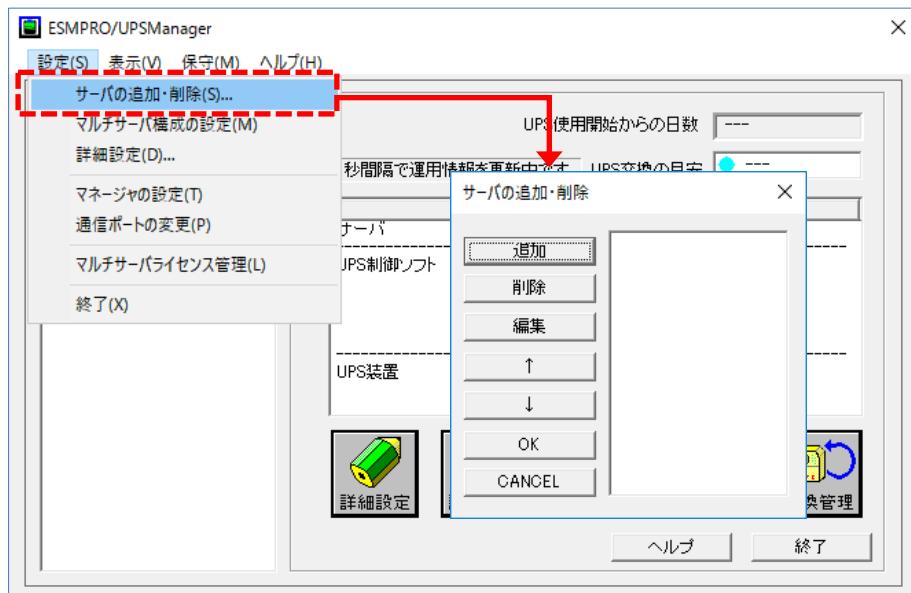


図4. 1-3

(4) [サーバの追加・削除] ダイアログの [追加] ボタンを選択し、[サーバの追加] ダイアログで任意の管理サーバを追加してください。管理サーバが複数台ある場合には台数分登録してください。

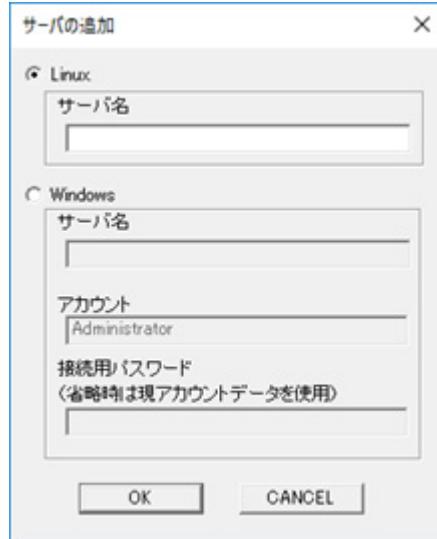


図4. 1-4

(5) 台数分の管理サーバを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。



図4. 1-5

(6) メイン画面に戻ると、追加した管理サーバが [ネットワーク] 配下に表示されます。GUIは自動的に監視処理を開始し、ステータス確認が可能になります。



図4. 1-6

## 4.2 LCD パネル付き Smart-UPS を使用したマルチサーバ構成設定: UM MSA の場合

まず、UM MSA 側で管理サーバの IP アドレス設定を行い、その後に UM サーバにて、GUI への UM エージェントの登録とライセンス登録操作が必要です。設定手順を以下に記載します。

### 4.2.1 UM MSA 上での管理サーバの IP アドレス登録 (Windows OS の場合)

以下の操作は、UM MSA (Windows 版) をインストールしたサーバ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManagerマルチサーバエージェント] → [マスタサーバの設定] を選択し、マスタサーバの設定画面を起動してください。
- (3) 起動したマスタサーバの設定画面上で、管理サーバのIPアドレスを [マスタサーバのIPアドレス] に入力してください。また通信ポートを変更する場合には、ポート番号を変更してください。

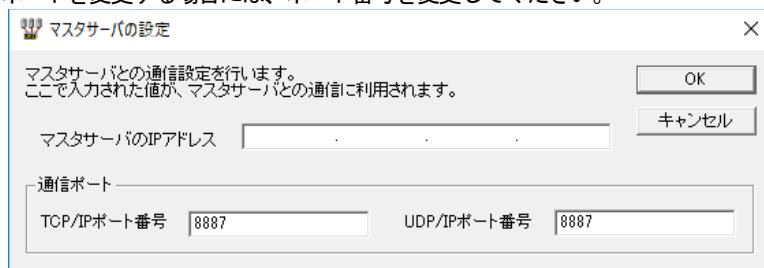


図4. 2-1

- (4) [OK] ボタンを選択すると、サービス再起動の確認メッセージが表示されるので、[はい] を選択してサービス再起動してください。再起動が終了したら、設定は終了です。

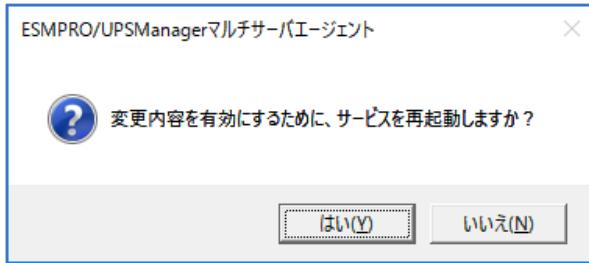


図4. 2-2

#### 4. 2. 2 UM MSA 上での管理サーバの IP アドレス登録 (Linux OS の場合)

以下の操作は、UM MSA (Linux 版) をインストールしたサーバ上で操作してください。

- (1) インストールを行う Linux サーバへ root でログインしてください。リモートから Linux サーバへ telnet 等を使用してログインする場合には、一般ユーザでログイン後、「su -」コマンドを実行して root アカウントに変更してください。
- (2) 以下のコマンドを実行して設定用のスクリプト (※) を実行します。管理サーバの IP アドレスと、通信ポートを指定してください。以下の実行例はデフォルトのポート番号(8887/TCP、8887/UDP)を使用した例です。  
例) # /opt/nec/ESMUPSM\_M/upsmmenv.sh -i 172.16.1.67 -t 8887 -u 8887

使用方法 :

upsmmenv.sh -i IP\_address -t TCP\_Port -u UDP\_Port

上記コマンドを実行すると、UM MSA のサービス再起動が行われます。

#### 4.2.3 ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのライセンス登録

以下の操作は、UM サーバをインストールした Windows 管理サーバ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [マルチサーバライセンス管理] を選択し、ライセンス管理画面を起動し、[追加] を選択し、ライセンスキーを入力してください。2台のUMエージェントを登録した場合、『基本ライセンス』のライセンスキーを入力し「OK」ボタンで登録してください。

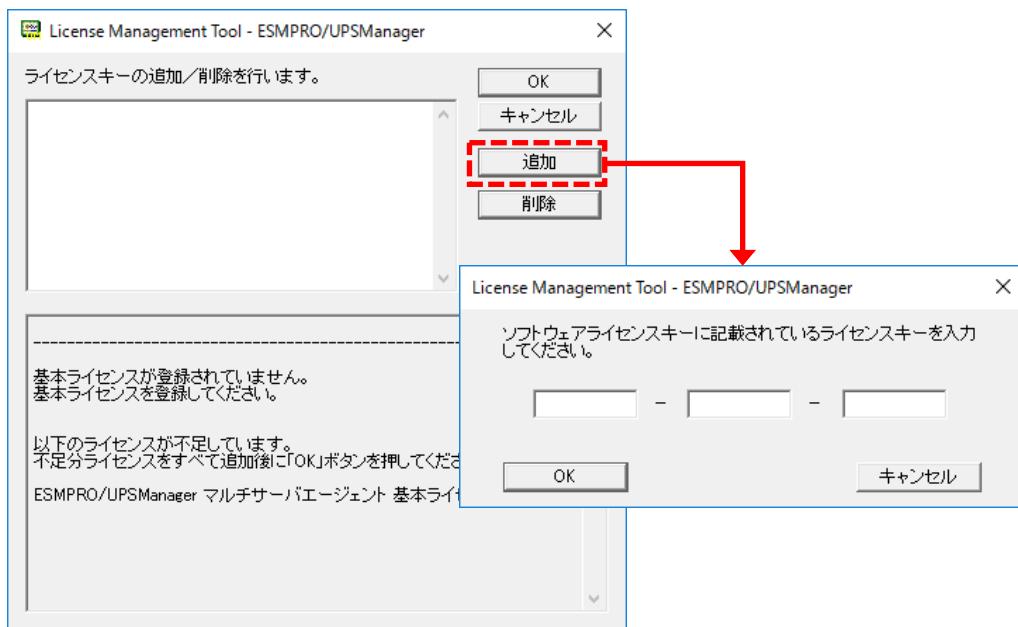


図4. 2-3

- (3) メイン画面に戻ると、登録されたライセンスキーを認識して現在登録済のUMエージェントの台数とライセンスキーのチェック処理を行い画面表示します。ライセンスが不足している場合には、『1追加ライセンス』を追加してください。

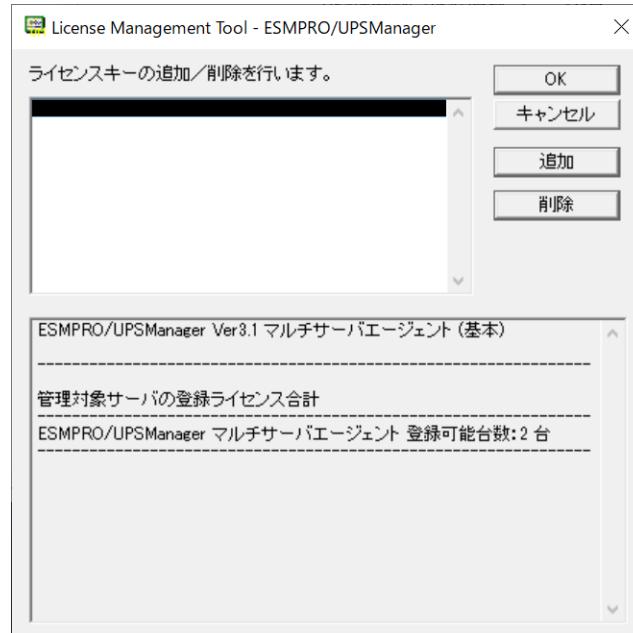


図4. 2-4

#### 4. 2. 4 UM サーバ (Windows) の GUI への UM エージェント登録

以下の操作は、UM サーバをインストールした Windows 管理サーバ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager サーバ (GUI) を起動してください。



図4. 2-5

- (3) ツリー表示中の管理サーバを選択し、[設定] → [マルチサーバ構成の設定] を選択してください。[マルチサーバ構成の設定]ダイアログが表示されます。

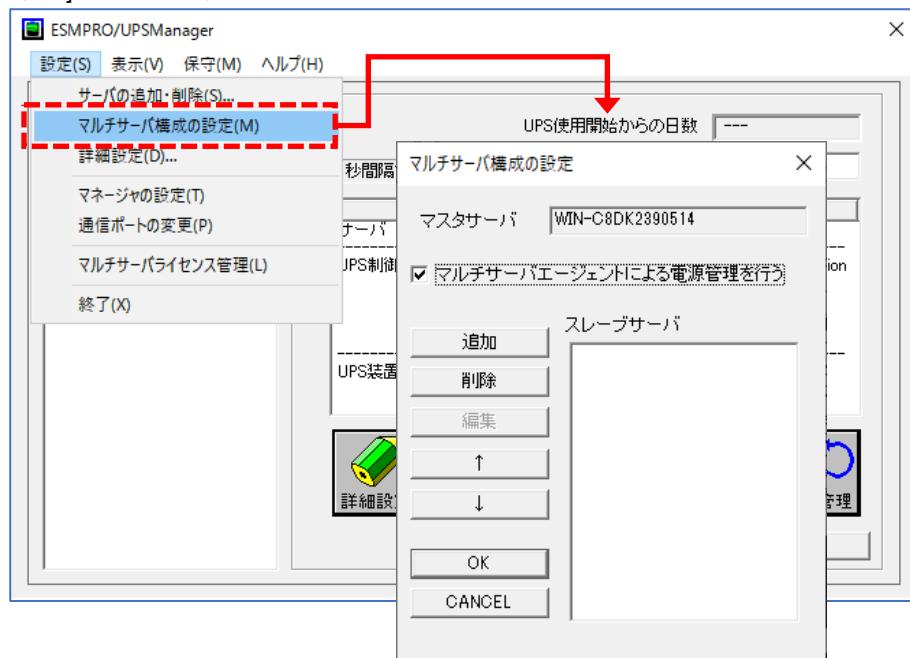


図4. 2-6

- (4) [マルチサーバ構成の設定]ダイアログにて、[マルチサーバエージェントによる電源管理を行う] チェックボックスをONにして、[追加] ボタンを選択すると、[スレーブサーバの追加]ダイアログが表示されますので、任意のサーバを追加してください。UMエージェントが複数台ある場合には台数分登録してください。

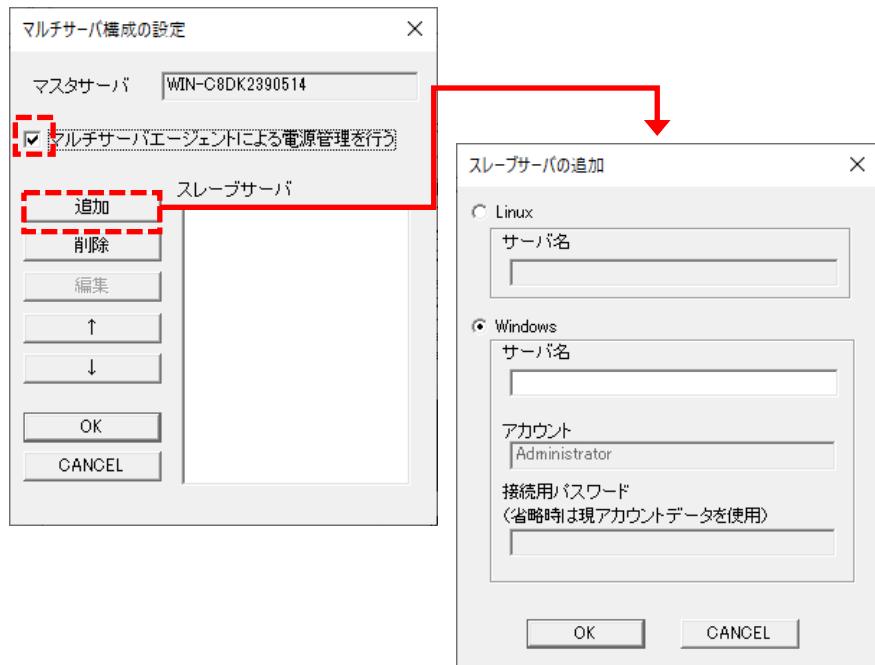


図4. 2-7

- (5) 台数分のUMエージェントを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

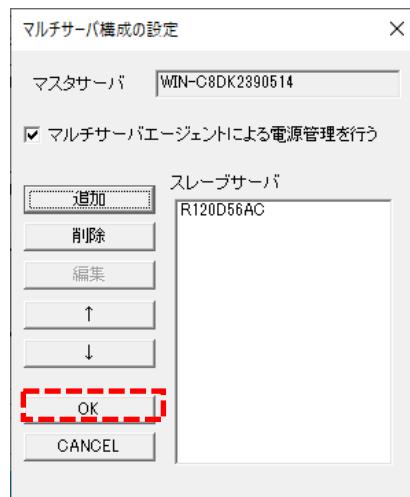


図4. 2-8

- (6) サービスの再起動確認メッセージが表示されますので、[はい]を選択してサービス再起動を行ってください。

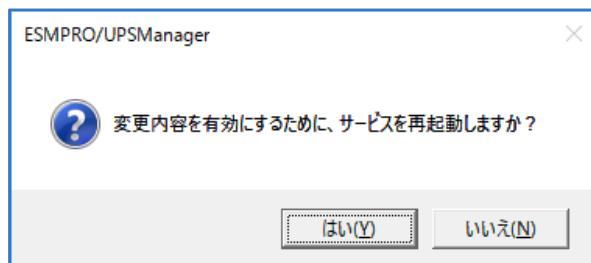


図4. 2-9

(7) サービス再起動後、各UMエージェントとの通信処理によりGUI上にステータス表示が行われます。

マスタサーバ：

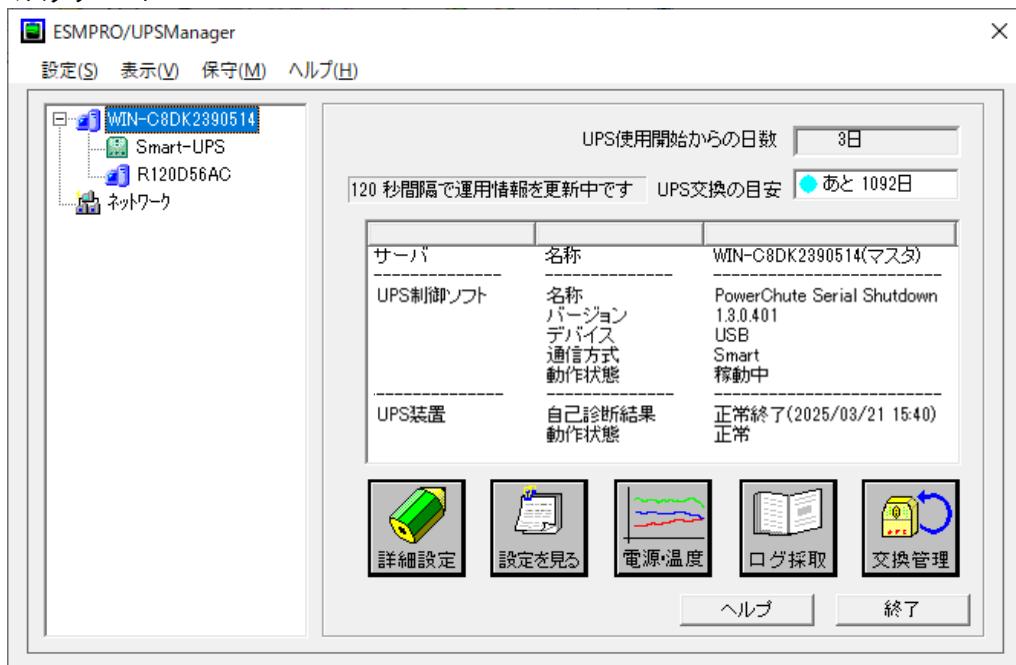


図4. 2-10

UM MSAスレーブサーバ：



図4. 2-11

(8) 管理サーバから各UMエージェントへシャットダウン指示を行うために、管理サーバ上のPowerChute Serial Shutdownエージェントに対し、以下の設定を行う必要があります。

Web UI から PowerChute Serial Shutdown エージェントにログインし、設定を行ってください。

- ① [シャットダウン]→[シャットダウンの設定] を選択してください。
- ② 「電源障害設定」の”電源障害時のシャットダウン開始”として、「UPS のバッテリ運転が次の時間経過後」を選択し、適切な秒数(60 秒など)を設定してください。
- ③ 「OS とアプリケーションのシャットダウン」の以下の項目を設定してください。
  - コマンドファイルの選択 : default.cmd (※)
  - コマンドファイルを実行するのに必要な時間 : 60 秒 (またはそれ以上の時間)

(※)別のコマンドファイルを登録済みの場合、"default.cmd"に変更する必要はありません。

Smart-UPS 500 PowerChute シャットダウン エネルギー管理 ログ

シャットダウン設定

- 電源障害設定

停電時のシャットダウン開始 :

即時

UPSのバッテリ状態が次の時間経過後

ランタイム制限で

停電時もシャットダウンしない。

UPS のバッテリ運転切替後、PowerChute Serial Shutdown によるシャットダウンプロセスが開始されるまでの時間を設定します。

- OSとアプリケーションのシャットダウン

OSがシャットダウンする時間 180 秒

必要な場合は、OSのシャットダウンに先立ち、コマンドファイルを使用してアプリケーションを終了します。

コマンドファイルの選択 default.cmd

コマンドファイルを実行するのに必要な時間 80 秒

本項目を設定することで、管理サーバの PowerChute Serial Shutdown によるシャットダウンプロセスが開始後、コマンドファイルが実行されます。

本コマンドファイルが実行されている間に、管理サーバから UM エージェントへのシャットダウン処理が行われます。

(補足)

本ファイルの編集は不要ですが、既に別のコマンドファイルを登録済の場合は、そのままの設定でかまいません。

- シャットダウンサマリ

コマンドファイルが終了するまでの時間を設定します。

この設定時間内に、管理サーバから UM エージェントへのシャットダウン処理が行われるため、必ず「60 秒以上」の値を設定してください。

図4. 2-12

### シャットダウンプロセスの動作イメージ(メインコンセントグループを有する機種)

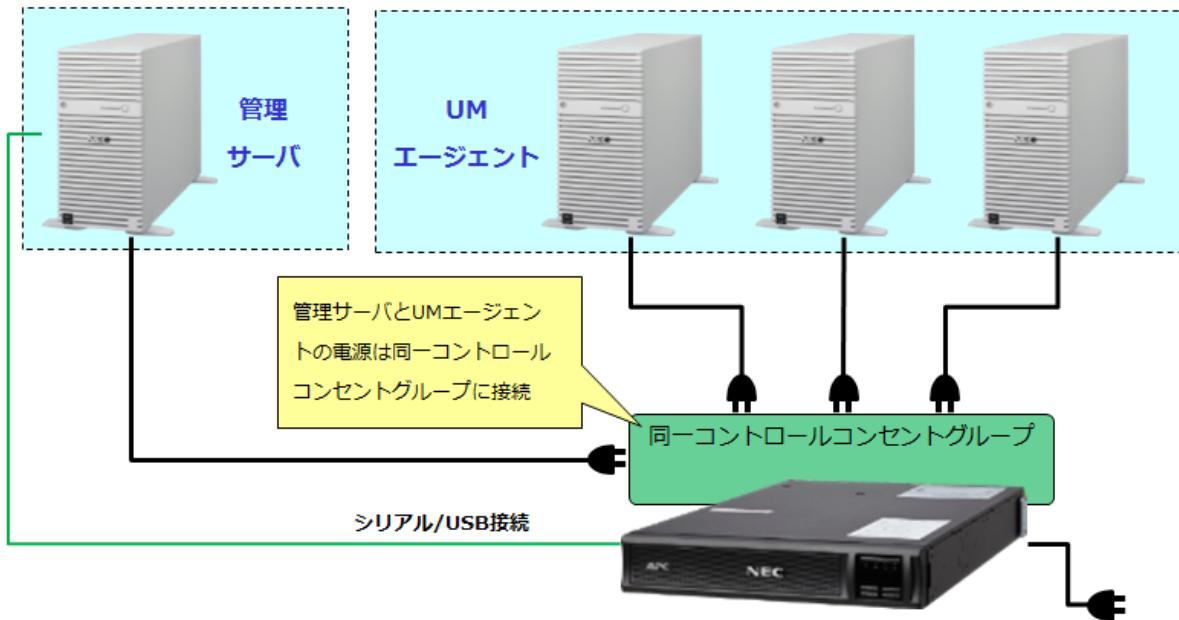


図4. 2-13

停電発生時や、設定したスケジュール OFF 時刻を超過した際など、システムのシャットダウン処理が開始された場合のシャットダウン処理の流れは以下のようになります。

※下記図は、各サーバが接続されているコンセントグループを「コンセントグループ1」に設定した場合の流れになります。

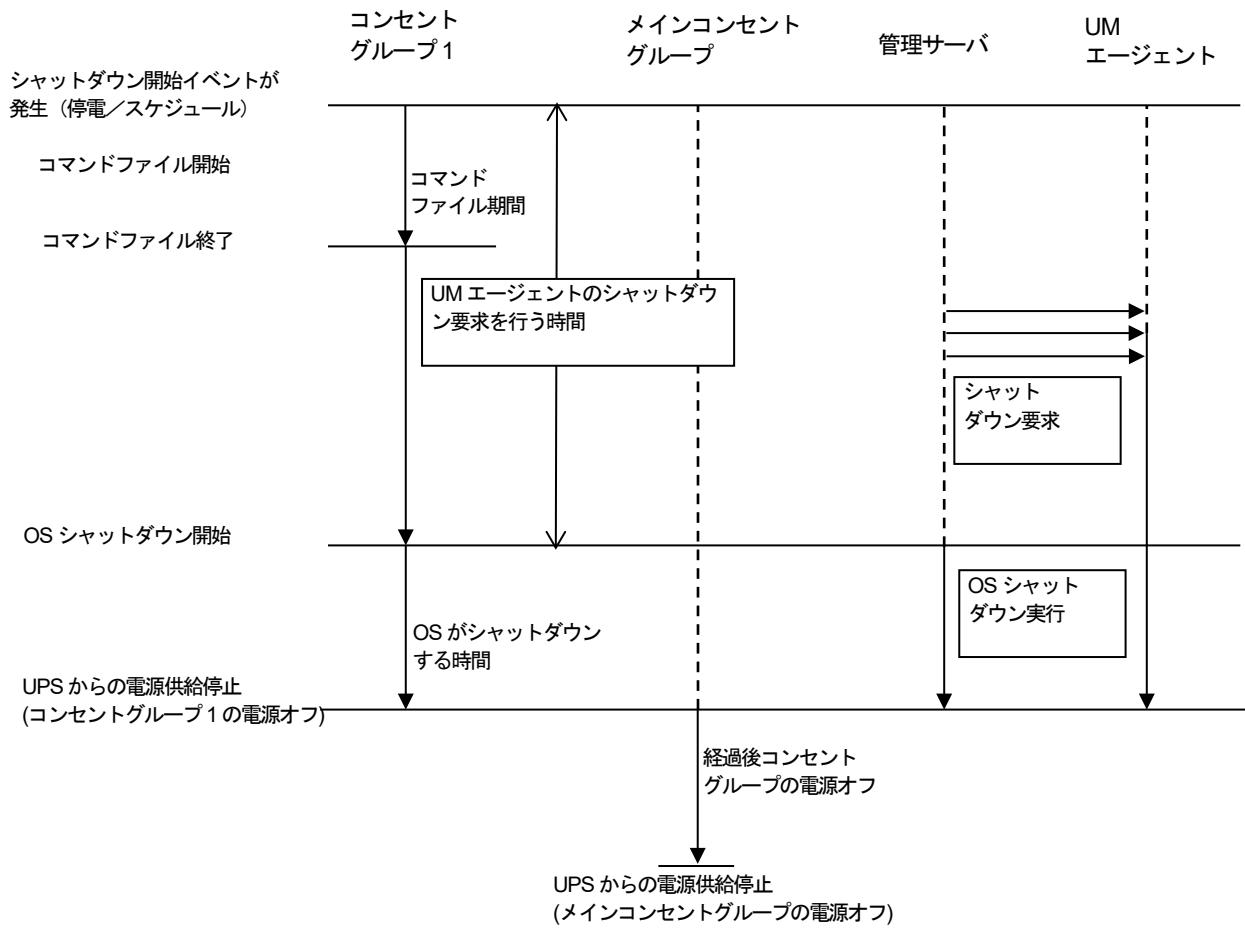
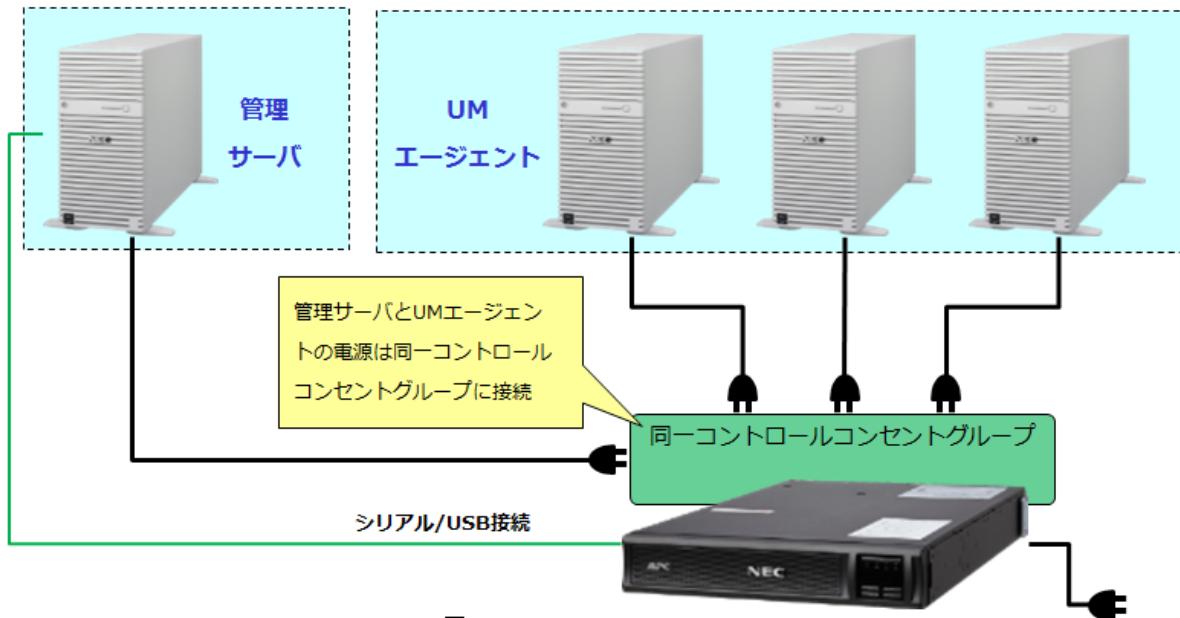


図4. 2-14

## シャットダウンプロセスの動作イメージ(コントロールコンセントグループのみを有する機種)



停電発生時や、設定したスケジュール OFF 時刻を超過した際など、システムのシャットダウン処理が開始された場合のシャットダウン処理の流れは以下のようになります。

※下記図は、各サーバが接続されているコンセントグループを「コンセントグループ 1」に設定した場合の流れになります。

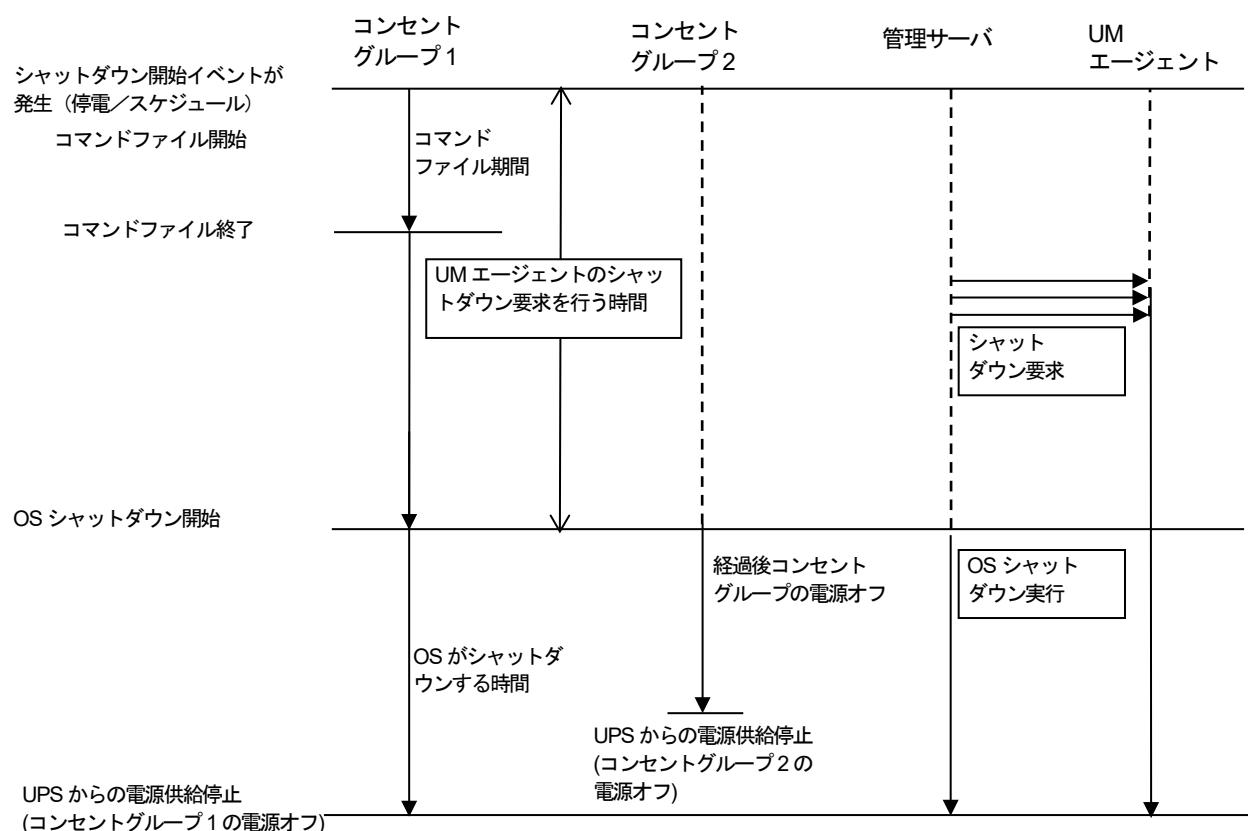


図4. 2-16

#### 4. 2. 5 UM マネージャの GUI へのエージェント登録

以下の操作は、UM マネージャをインストールしたマネージャ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager マネージャ (GUI) を起動してください。

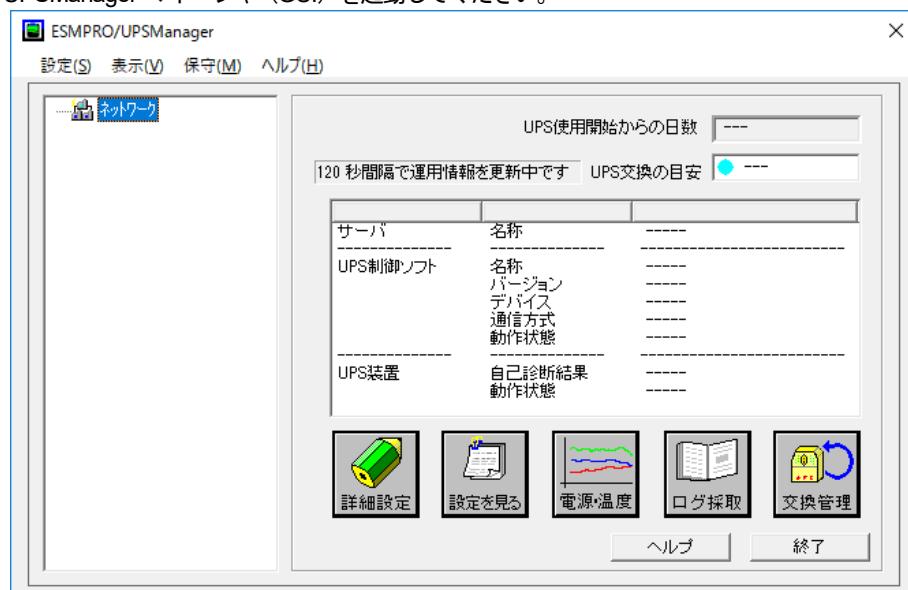


図4. 2-17

- (3) [設定] → [サーバの追加・削除] を選択してください。

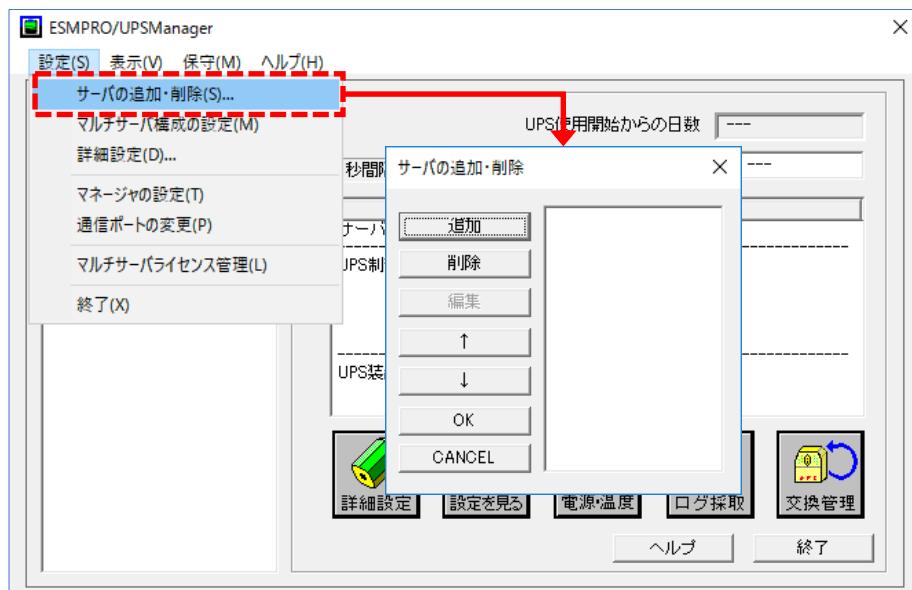


図4. 2-18

- (4) [サーバの追加・削除] ダイアログの [追加] ボタンを選択し、[サーバの追加] ダイアログで任意の管理サーバを追加してください。管理サーバが複数台ある場合には台数分登録してください。

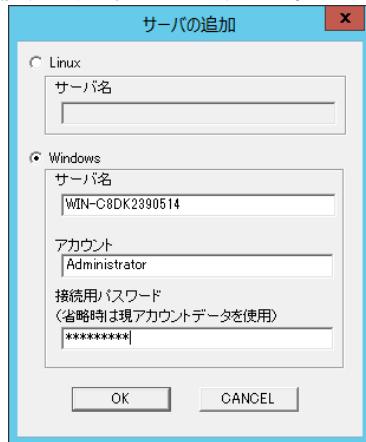


図4. 2-19

- (5) 台数分の管理サーバを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

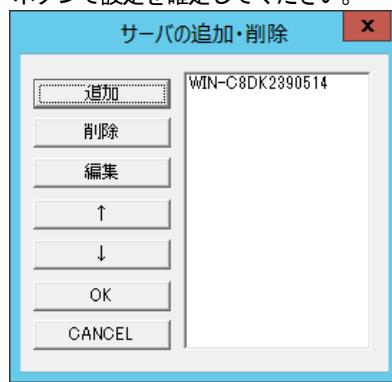


図4. 2-20

- (6) メイン画面に戻ると、追加した管理サーバが [ネットワーク] 配下に表示されます。



図4. 2-21

(7) ツリー表示中の管理サーバを選択し、[設定] → [マルチサーバ構成の設定] を選択してください。

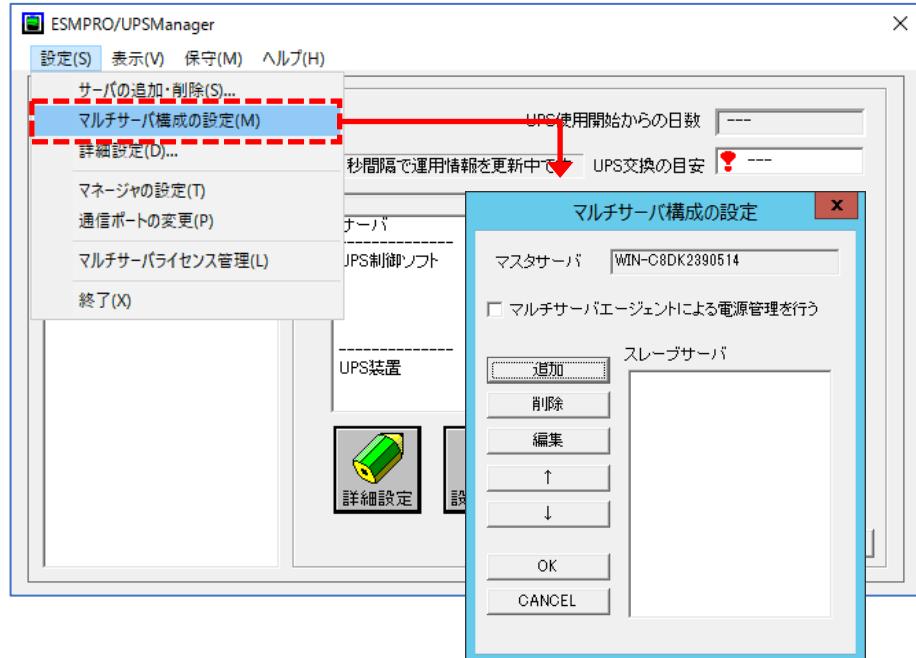


図4. 2-22

(8) [マルチサーバエージェントによる電源管理を行う] チェックボックスをONにして、[追加] ボタンを選択し、[スレーブサーバの追加] ダイアログで任意のサーバを追加してください。UMエージェントが複数台ある場合には台数分登録してください。

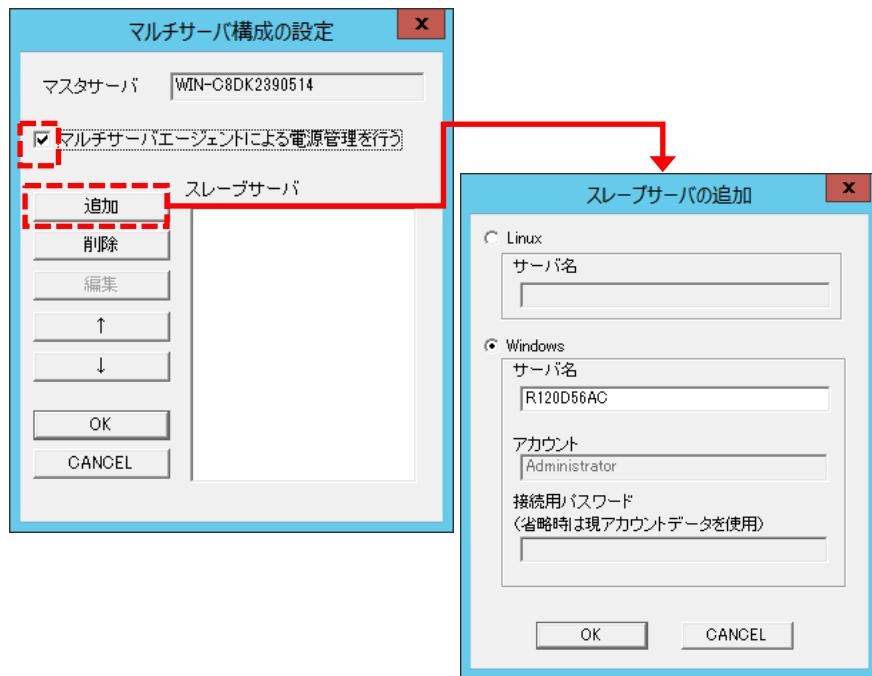


図4. 2-23

(9) 台数分のエージェントを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

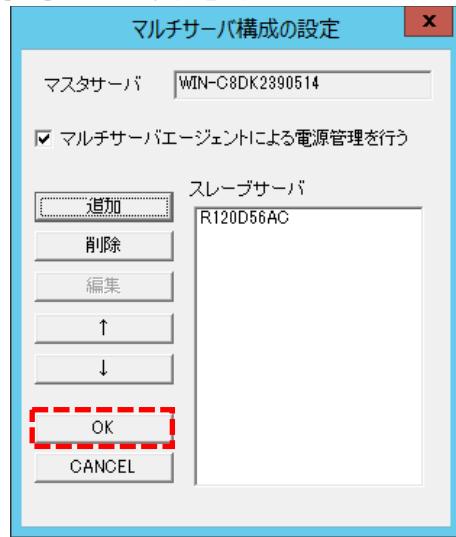


図4. 2-24

(10) 各エージェントとの通信処理により [ネットワーク] 配下の管理サーバとエージェントのステータスがGUI 上に表示されます。

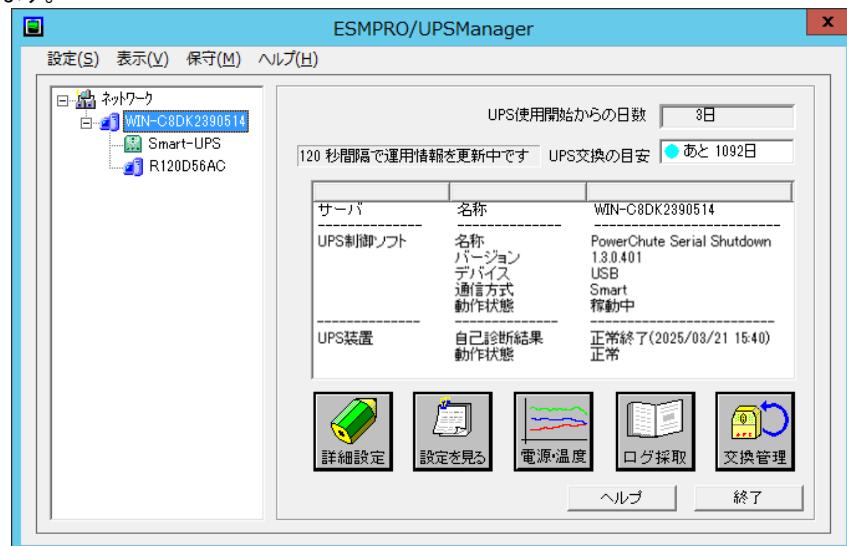


図4. 2-25

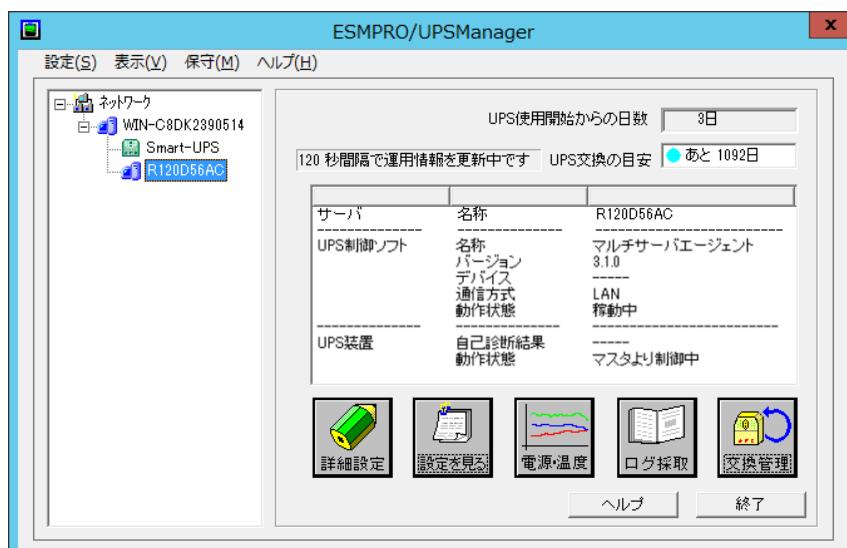


図4. 2-26

## 4.3 LCD パネル付き Smart-UPS を使用したマルチサーバ構成設定：UPS インタフェース拡張ボードを使用する場合

UPS インタフェース拡張ボードを使用したマルチサーバ構成の場合、UM サーバ上にて、GUI へのスレーブサーバの登録操作が必要です。設定手順を以下に記載します。

### 4.3.1 UM サーバ (Windows) の GUI へのスレーブサーバ登録

以下の操作は、UM サーバ (Windows) をインストールしたマスタサーバ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager サーバ (GUI) を起動してください。

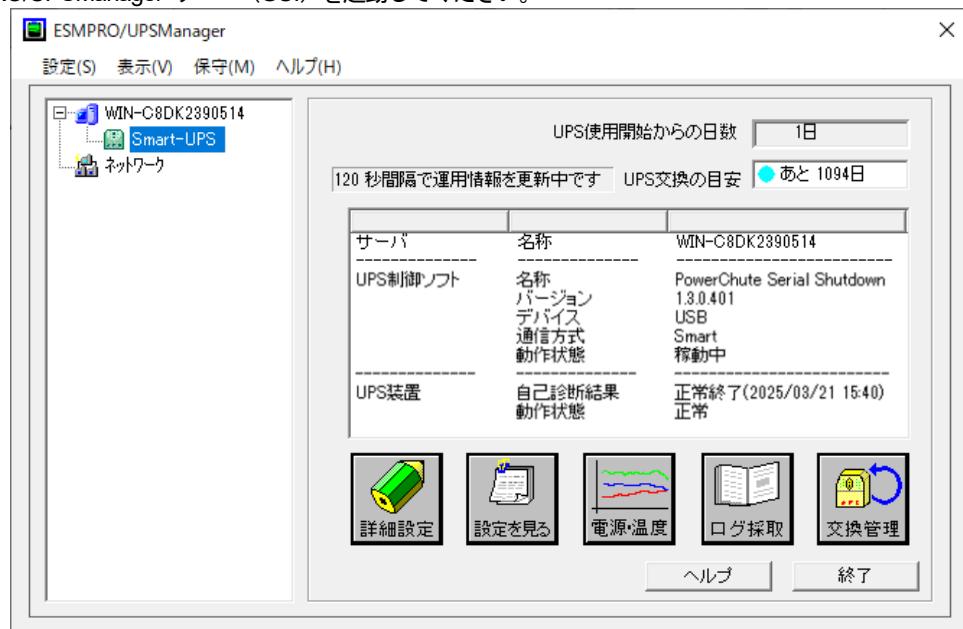


図4. 3-1

(3) ツリー表示中のマスタサーバを選択し、[設定] → [マルチサーバ構成の設定] を選択してください。

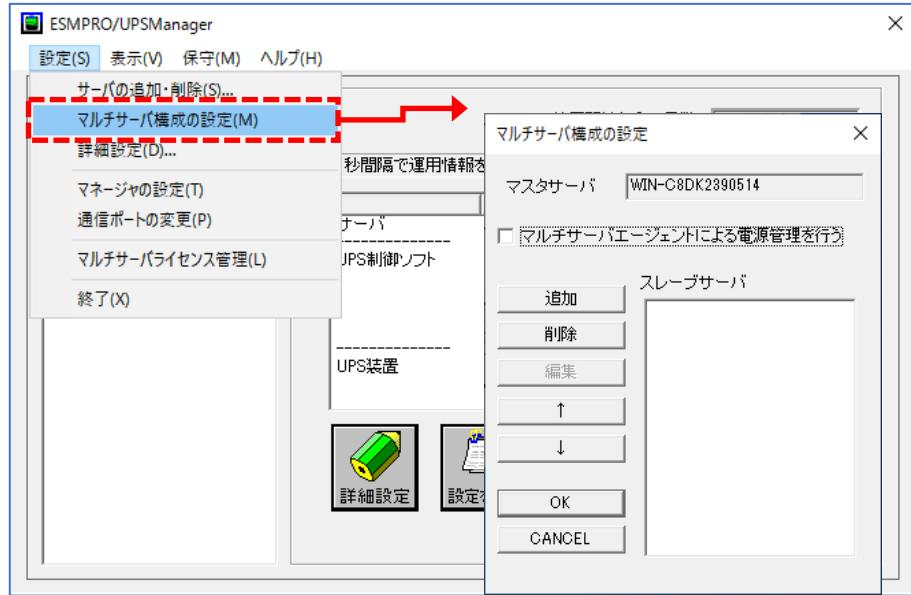


図4. 3-2

(4) [マルチサーバ構成の設定] ダイアログの [追加] ボタンを選択し、[スレーブサーバの追加] ダイアログで任意のサーバを追加してください。スレーブサーバが複数台ある場合には台数分登録してください。

※注意：

「マルチサーバエージェントによる電源管理を行う」をチェックしないでください。

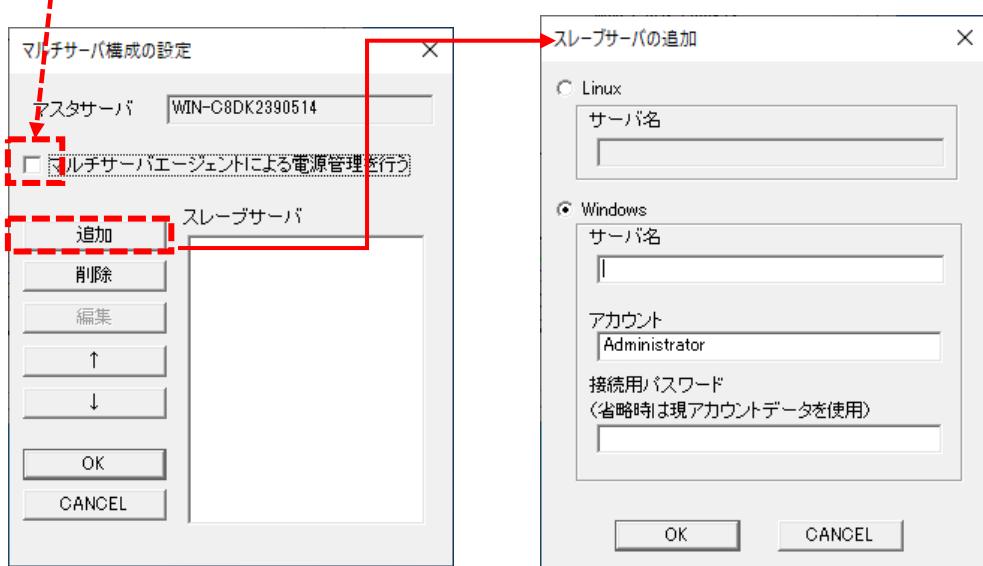


図4. 3-3

(5) 台数分のスレーブサーバを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

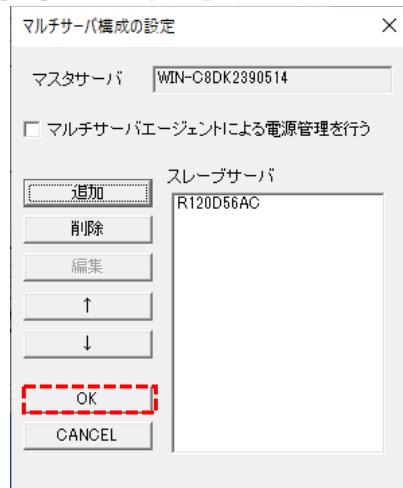


図4. 3-4

(6) サービスの再起動確認メッセージが表示されますので、[はい]を選択してサービス再起動を行ってください。

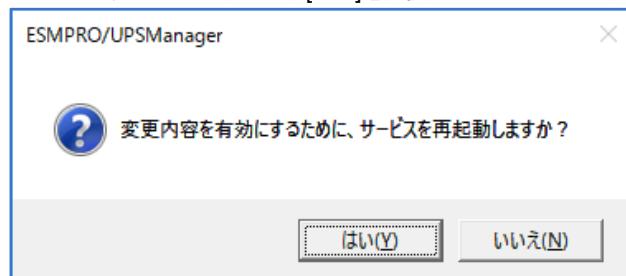


図4. 3-5

(7) サービス再起動後、各スレーブサーバとの通信処理によりGUI上にステータス表示が行われます。

マスタサーバ：

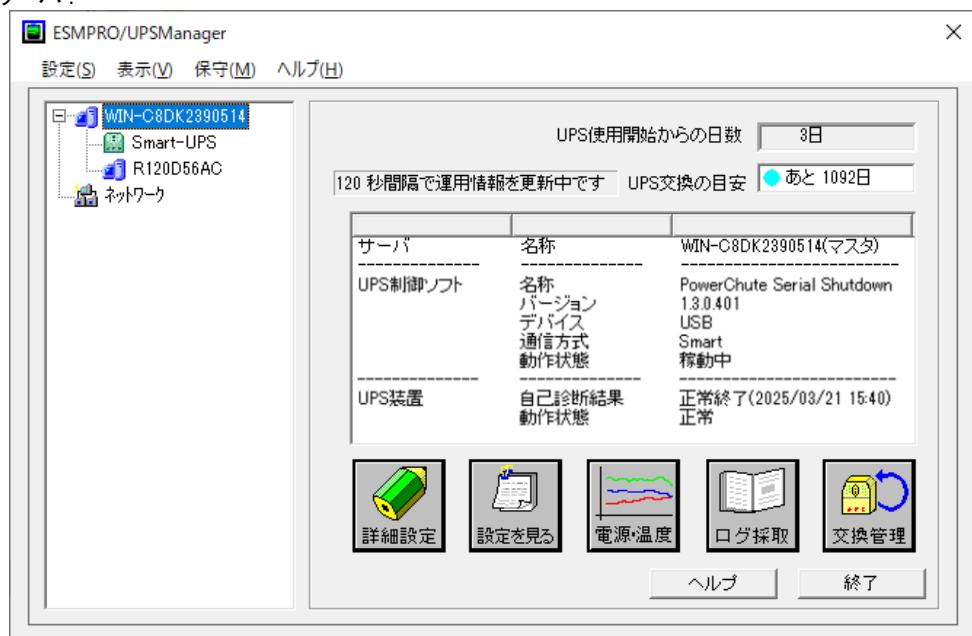


図4. 3-6

スレーブサーバ：



図4. 3-7

#### 4.3.2 UM マネージャの GUI へのスレーブサーバ登録

マルチサーバ構成をマネージャで管理する場合や、マスタサーバに Linux OS を使用する場合には以下の操作が必要になります。UM マネージャをインストールしたマネージャ上で操作してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
- (2) プログラムグループ [ESMPRO\_UPSManager] → [ESMPRO\_UPSManager] を選択し、ESMPRO/UPSManager マネージャ (GUI) を起動してください。



図4. 3-8

- (3) [設定] → [サーバの追加・削除] を選択してください。



図4. 3-9

- (4) [サーバの追加・削除] ダイアログの [追加] ボタンを選択し、[サーバの追加] ダイアログで任意のマスタサーバーを追加してください。マスタサーバーが複数台ある場合には台数分登録してください。

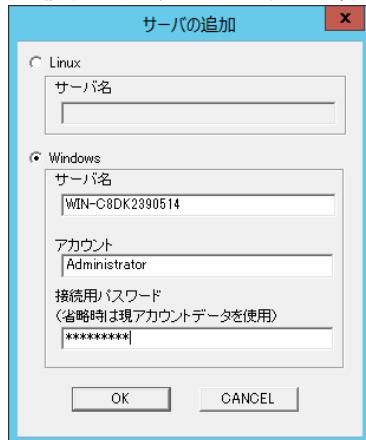


図4. 3-10

- (5) 台数分のマスタサーバーを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

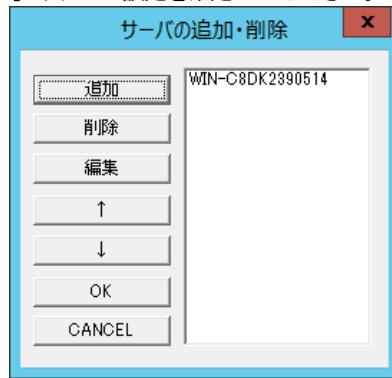


図4. 3-11

- (6) メイン画面に戻ると、追加したマスタサーバーが [ネットワーク] 配下に表示されます。

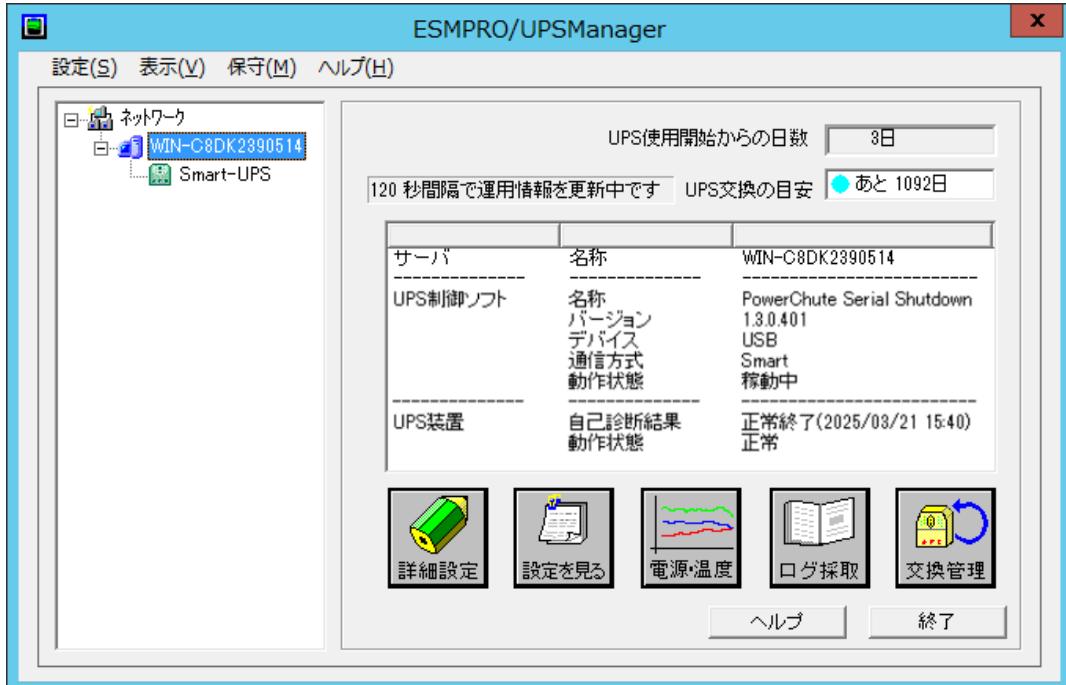


図4. 3-12

(7) ツリー表示中のマスタサーバを選択し、[設定] → [マルチサーバ構成の設定] を選択してください。

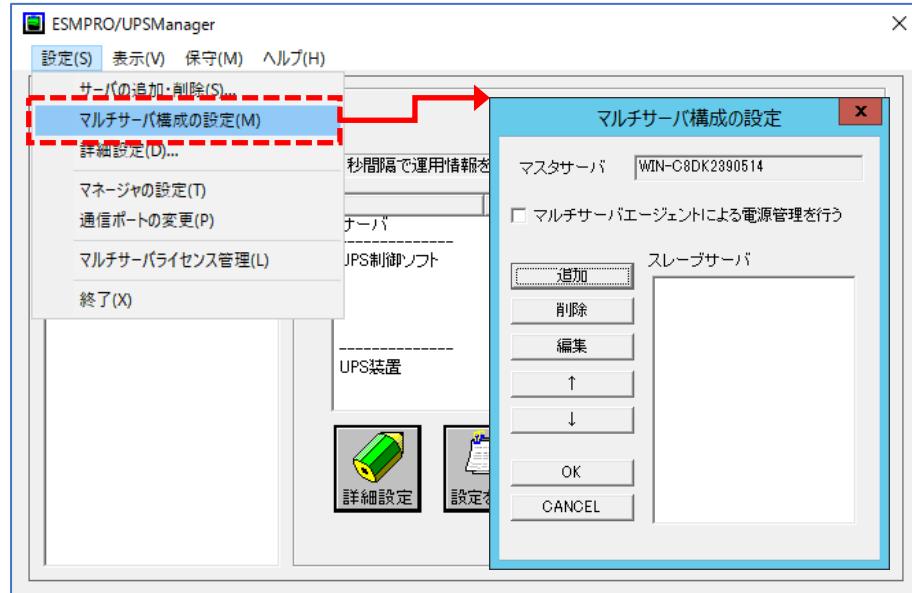


図4. 3-13

(8) [マルチサーバ構成の設定] ダイアログの [追加] ボタンを選択し、[スレーブサーバの追加] ダイアログで任意のサーバを追加してください。スレーブサーバが複数台ある場合には台数分登録してください。

※注意：

「マルチサーバエージェントによる電源管理を行う」をチェックしないでください。

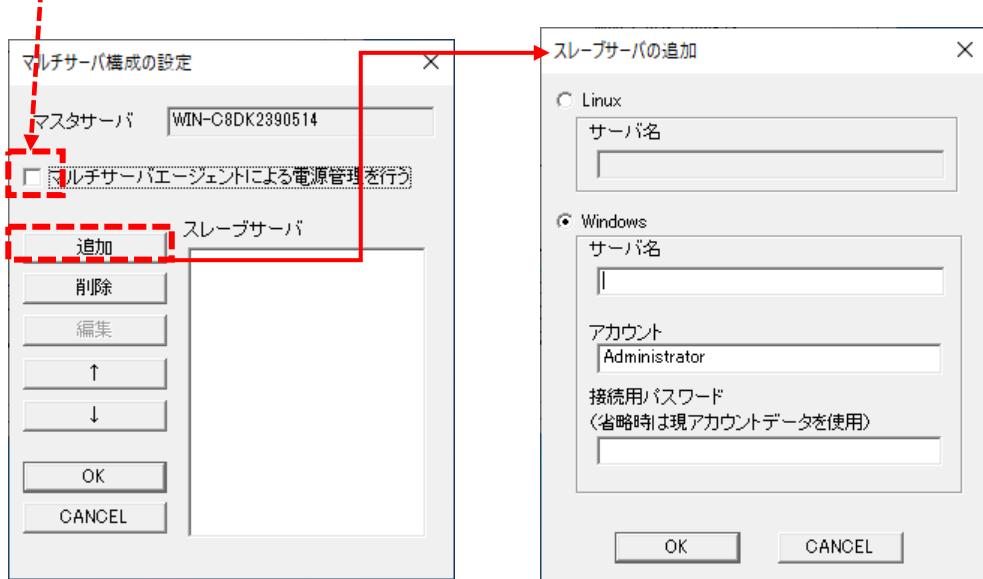


図4. 3-14

(9) 台数分のスレーブサーバを登録後、[OK] ボタンで設定を確定してください。

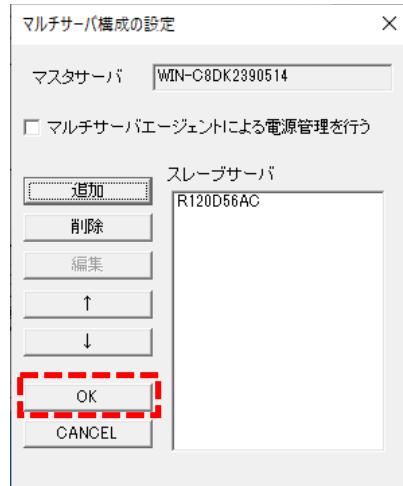


図4. 3-15

(10) 各スレーブサーバとの通信処理により [ネットワーク] 配下のマスタサーバとスレーブサーバのステータスが GUI上に表示されます。

マスタサーバ：

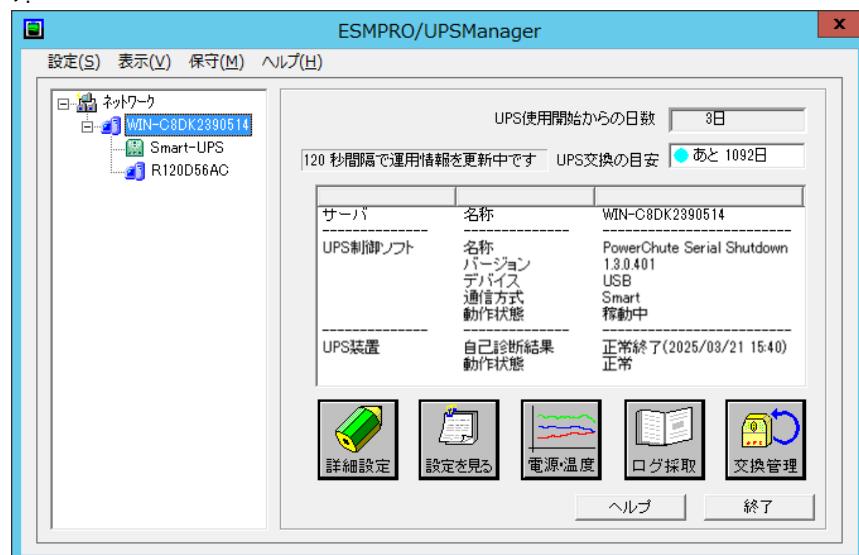


図4. 3-16

スレーブサーバ：

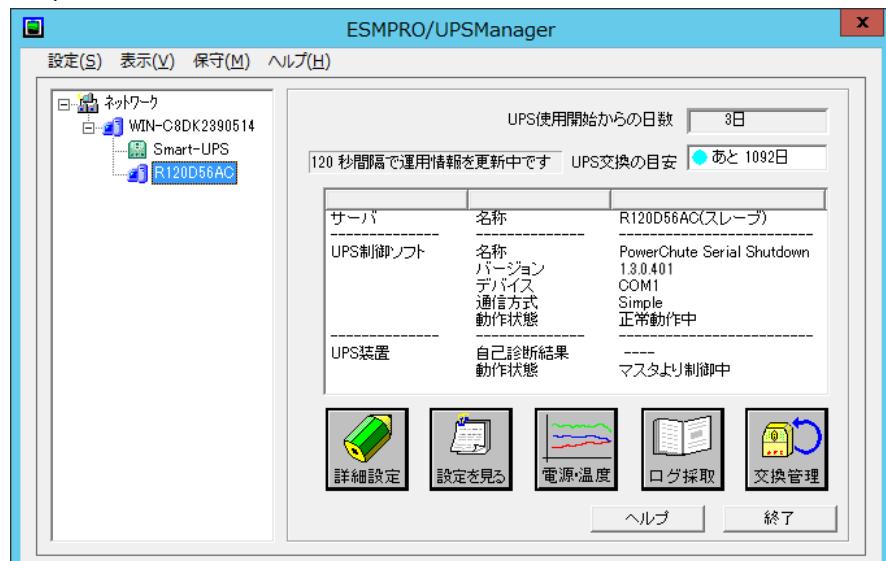


図4. 3-17

## 5. 注意事項

ここではESMPRO/UPSManagerに関する注意事項を記載しています。

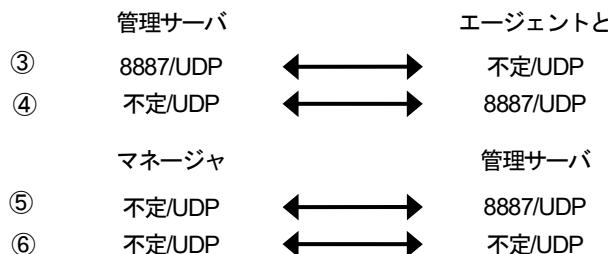
これとは別に各UPS制御ソフトウェア固有の注意事項があります。各UPS制御ソフトウェアの注意事項についてはUPS制御ソフトウェアに添付のマニュアルを別途参照してください。

### 5.1 環境設定及び運用関連

- (1) 本製品はAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでログオンして使用してください。  
また、セットアップ作業についても同様にAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでログオンして行ってください。
- (2) 運用中は取得したサーバの情報を処理するための一時ファイルを生成します。インストールフォルダには十分な空き容量を用意してください。
- (3) Windows環境では、本ソフトウェアのインストールフォルダに共有名「UPSM」を設定しています。  
この共有の設定が解除されるとマネージャ～サーバ間で通信が正常に行われなくなり、動作が不正になりますので、共有の設定を解除しないでください。  
共有フォルダの設定についてセキュリティ上問題がある場合は、フォルダのアクセス権を「Administrators一読み取り」に変更して運用してください。
- (4) ESMPRO/UPSManagerの「UPS交換管理」をご利用いただく場合は、セットアップ後に「UPS使用開始日」と「UPS交換目安」を登録してください。
- (5) 本バージョンのESMPRO/UPSManagerは、JIS2004で新規追加された文字に対応しておりません。  
そのため、インストール時のインストールパスや、ESMPRO/UPSManagerのGUI操作において、JIS2004の新規追加文字が含まれるパス情報は指定、入力しないでください。
- (6) ESMPRO/UPSManagerはデフォルトで以下のポートを使用しています。Windows OS環境においてWindowsファイアウォールを有効にして運用している場合、以下の通信が正しくできるように、ファイアウォールの設定を変更してください。  
※サーバが使用するポートの設定値は必要に応じて変更可能です。



ESMPRO/UPSManagerマルチサーバエージェントによるマルチサーバ構成の場合、上記に加えて以下の通信ポートも使用します。



※②の設定については以下の設定手順例を参考にしてください。

1. [コントロールパネル] → [システムとセキュリティ] → [管理ツール]を選択。
2. 「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」を選択。
3. 「受信の規則」を選択。
4. メニュー【操作】→【新規の規則..】を選択して「新規の受信の規則ウィザード」を起動。
5. 「新規の受信の規則ウィザード」にて以下の情報を入力していく。
  - 5-1 「カスタム」を選択して「次へ」を選択。
  - 5-2 「すべてのプログラム」を選択して「次へ」を選択。
  - 5-3 プロトコルの種類: ICMPv4を選択して「次へ」を選択。
  - 5-4 運用環境を考慮して「任意のIPアドレス」または適切なIPアドレス情報を

入力して「次へ」を選択。

5-5 「接続を許可する」を選択して、「次へ」を選択。

5-6 運用環境にあわせてドメイン、プライベート、パブリックを選択し「次へ」を選択。

5-7 適当な名前を入力して「完了」を選択。

※Windows ファイアウォール機能が有効な環境において利用する場合、Windows ファイアウォールの設定画面の[例外]タブの「プログラムの追加」から"ESMPRO\_UPSManager"のプログラム(UPSM.exe)を登録してください。

- (7) ESMPRO/UPSManager の管理対象となるサーバは、DNS サーバや hosts ファイルなどによる名前解決が可能となっている必要があります。サーバ名には、IP アドレスを指定することはできません。
- (8) ESMPRO/UPSManager による運用中は、Smart-UPS の OFF ボタンや LCD パネルから UPS の停止操作を行わないでください。
- (9) ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントを利用したマルチサーバ構成、または ESMPRO/AutomaticRunningController と連携した運用を行う場合、PowerChute Serial Shutdown のエージェント設定において、負荷制限機能を使用しないでください。また、電源障害時のシャットダウン開始タイミングにおいて、「ランタイム制限で」または「電源障害時にシャットダウンせず」の選択を行わないでください。
- (10) ESMPRO/UPSManager は、クラスタ環境には対応していません。
- (11) LCD パネル付き Smart-UPS 装置を使用してマルチサーバ構成のシステムを構築する場合、ESMPRO/UPSManager の管理サーバおよびマルチサーバエージェントをインストールしたサーバの電源は、すべて同一コントロールコンセントグループに接続して運用してください。  
(管理サーバとマルチサーバエージェントの電源を、別々のコントロールコンセントグループに接続して運用することは未サポートとなります。)

## 5. 2 インストール関連

- (1) ESMPRO/UPSManager を使用している環境で、PCSS をアンインストールする場合は、先に ESMPRO/UPSManager をアンインストールしてから PCSS をアンインストールしてください。
- (2) 本製品のインストール、運用にあたっては、PCSS のドキュメントも併せて参照してください。
- (3) UM サーバや UM マネージャの製品をバージョンアップする際は、古い製品をアンインストール後、バージョンアップする製品をインストールする必要があります。アンインストール／インストールの各手順の詳細については、各バージョンのセットアップカードを参照して実施してください。

## 5. 3 Linux OS 関連

- (1) Linux サーバにインストールした ESMPRO/UPSManager のバージョンは以下の方法で確認してください。  
# rpm -q esmproum

## 5. 4 GUI 表示及び設定関連

- (1) LCD パネル付き SmartUPS の場合、PowerChute Serial Shutdown から「入力電圧低」「入力電源高」のデータが提供されなくなったため、グラフ表示が入力電圧(低)[V],入力電圧(高)[V]とも 0(ゼロ)の状態となります。
- (2) スケジュールが設定された場合、ESMPRO/UPSManager マネージャ (GUI) の「設定を見る」で表示されたスケジュール「期間」は下記の期間となります。

LCD パネルなし Smart-UPS の場合：  
UPS の出力停止時間から UPS のウェイクアップ時間まで  
(すなわち UPS のスリープ時間)

LCD パネル付き Smart-UPS の場合：  
UPS スケジュール開始時間から UPS のウェイクアップ時間まで  
(すなわちシャットダウンシーケンスの時間+UPS のスリープ時間)

## 6. スレーブサーバのエクスプレス通報／ALIVE 通報設定について

ここで説明するのはESMPRO連携機能による通報機能を利用の際、PowerChute Serial Shutdownのスレーブサーバで記録される「電源障害」イベントをエクスプレス通報／ALIVE通報の通報対象とする／しないを切り替えるための設定手順です。

エクスプレス通報／ALIVE通報をご契約されていない場合、またはESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentをインストールされていない場合はここでの設定手順を実施いただく必要はありません。

### 6.1 「電源障害」イベント発生条件とエクスプレス通報／ALIVE 通報について

PowerChute Serial Shutdownのソフトウェア仕様では、以下の場合に「電源障害」イベントが発生します。

#### 【電源障害のイベントが記録される条件】

＜マスタサーバの場合＞

- 実際に停電が発生した場合。

＜スレーブサーバの場合＞

- 実際に停電が発生した場合。

● PowerChute Serial Shutdownによるマルチサーバ構成時、スケジュールによりマスタサーバのシステムシャットダウンが開始されますと、UPSインターフェース拡張ボードから各スレーブサーバに対して、オンバッテリ信号、およびローバッテリ信号が送信されます。それをスレーブサーバが検知してスレーブサーバのシャットダウンが行われます。そのとき検出したオンバッテリ信号により「電源障害」イベントが記録されます。

● 瞬電が発生した場合、UPS(およびUPSインターフェース拡張ボードからオンバッテリ信号が送信されます。スレーブサーバ(シンプルシグナリング)の場合は瞬電時のオンバッテリ信号を検出して「電源障害」がイベントに記録されます。

※マスタサーバ(スマートシグナリング)の場合は、ソフトウェアの仕様により、約4~5秒間連続してオンバッテリ信号を検出し続けるまで、「電源障害」のイベントを記録しません。従って、瞬電が発生したとき、マスタサーバでは「電源障害」のイベントは記録されません。

(参考)

WindowsではOSのイベントログのアプリケーションログに以下のイベントが記録されます。

ソース : APCPBEAgent

イベントID : 2000

説明 : 電源障害

Linuxではシステムログ(/var/log/messages)内に以下のように記録されます。

upsmsvc: 2025/03/21 23:01:22-> 「PCSS:電源障害」 (.3.5.1.5.4.1)

エクスプレス通報／ALIVE通報をご契約されている場合、上記条件により記録される「電源障害」イベントが契約先の保守会社に「電源障害」としてエクスプレス通報／ALIVE通報されます。その後、保守会社より「電源障害」についての異常確認の連絡が寄せられる場合があります。

特に、マルチサーバ構成でのスケジュールによるサーバシャットダウン／起動の運用を行っている場合、スケジュールシャットダウン実施時に、各スレーブサーバから毎回「電源障害」が通報されてしまいます。

しかし、通常ではエクスプレス通報／ALIVE通報については通報対象とする／しないの設定変更ができませんが、本ツールを利用することでPowerChute Serial Shutdownの「電源障害」イベントについてのみエクスプレス通報／ALIVE通報の通報対象とする／しないを切り替えることができます。

#### ＜重要＞

本ツールを使用して「電源障害」イベントをエクスプレス通報／ALIVE通報の通報対象としない設定にした場合、そのサーバについては上記【電源障害のイベントが記録される条件】に記載しているいずれの事象が発生しても「電源障害」はエクスプレス通報／ALIVE通報されなくなります。

これをご了承の上で本ツールをご使用ください。

#### ※注意 :

- ・「電源障害」以外のイベントについては、本ツールによるエクスプレス通報／ALIVE通報の通報対象切り替えはできません。
- ・本ツールを使用した場合、PowerChute Serial Shutdownに関する各イベントの通知先等の通報設定はデフォルトに戻ります。
- ・本ツールをマスタサーバには使用しないでください。

## 6.2 「電源障害」イベントの通報切り替え手順

PowerChute Serial Shutdown の「電源障害」イベントをエクスプレス通報／ALIVE 通報する／しないように設定変更するための設定手順を説明します。

なお、以降の説明では特に明記しない限りエクスプレス通報／ALIVE 通報を単に「通報」と表現して説明します。

「電源障害」イベントの通報を設定変更したい各サーバ上でそれぞれ以下の手順を実施してください。

ESMPRO/UPSManager インストール時の既定値は、「通報する」設定です。

スレーブサーバを通報する設定で運用する場合には、下記手順の実行は不要です。

設定手順は Windows サーバ、Linux サーバで異なりますのでご注意ください。

また、本ツールは ESMPRO/UPSManager マネージャをインストールしたマシン上で利用しないでください。

### 6.2.1 Windows サーバ

- (1) Administrator 権限でログオンし、コントロールパネルを開き、  
[ESMPRO/ServerAgentService] または[ESMPRO/ServerAgent] が存在することを確認してください。
- (2) コマンドプロンプトを起動してください。
- (3) cd コマンドで ESMPRO/UPSManager をインストールしたフォルダ  
(デフォルトは ¥Program Files (x86)¥ESMUPSM ) に移動してください。
- (4) 新しい通報の情報を反映させます。以下のコマンドの「n」には※印の注意を読んで値を指定し、コマンドを実行してください。コマンドが正常に実行された場合は何もメッセージは表示されません。異常があった場合は異常を示すメッセージが表示されます。  
> um\_rep.exe n  
**※注意** : 「n」に指定する値について  
「n」の値には以下のいずれかの値を指定してください。  
0: 「電源障害」のイベントを通報するように設定します。  
1: 「電源障害」のイベントを通報しないように設定します。

上記設定は反映されるまでに最長 10 分（通報サービスのポーリング間隔）掛かる場合があります。すぐに反映したい場合、Alert Manager Main Service を再起動してください。

### 6.2.2 Linux サーバ

- (1) 現在設定されている PowerChute Serial Shutdown に関する通報の情報を削除します。以下のコマンドを実行してください。  
#/opt/nec/ESMUPSM/um\_rep.sh del  
コマンドが正常に実行された場合は何もメッセージは表示されません。  
異常があった場合は異常を示すメッセージが表示されます。  
※ご使用の環境によっては上記コマンド実行後、プロンプトが表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- (2) ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent のサービスを再起動してください。  
#/opt/nec/esmpo\_sa/bin/ESMRestart  
※手順 1.の通報の情報を削除した後に必ず本手順 2.を実施してください。
- (3) 新しい通報の情報を反映させます。以下のコマンドの「n」には※印の注意を読んで値を指定し、コマンドを実行してください。  
#/opt/nec/ESMUPSM/um\_rep.sh add n  
**※注意** : 「n」に指定する値について  
「n」の値には以下のいずれかの値を指定してください。  
0: 「電源障害」のイベントを通報するように設定します。  
1: 「電源障害」のイベントを通報しないように設定します。  
コマンドが正常に実行された場合は何もメッセージは表示されません。  
異常があった場合は異常を示すメッセージが表示されます。
  - ・ご使用の環境によっては上記コマンド実行後、プロンプトが表示されるまでに時間がかかる場合があります。
  - ・新しい通報の情報が反映されるまでに最長 15 分（通報サービスのポーリング間隔）掛かる場合があります。すぐに反映したい場合、ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent のサービスを再起動してください。

## 7. 障害発生時のログ採取方法

ここでは、障害発生時に採取していただきたい必要な情報の採取方法を記述しています。障害発生時に採取が必要な情報は以下のとおりです。

- (1) ESMPRO/UPSManager、およびご使用のUPS制御ソフトウェアに関するログ
- (2) OSおよび本体装置に関する各種情報

**※マルチサーバ構成にて運用中の場合は、全てのサーバ（マスタサーバ、スレーブサーバ）のログを採取してください。**

### 7.1 ESMPRO/UPSManager および UPS 制御ソフトウェアのログ採取

ここでは ESMPRO/UPSManager およびご使用の各 UPS 制御ソフトウェアに関するログ採取方法を説明します。

#### 7.1.1 ESMPRO/UPSManager によるログ採取

ESMPRO/UPSManager のマネージャに登録して管理しているサーバについては、ESMPRO/UPSManager のログファイルとご使用の UPS 制御ソフトウェアのログファイルを、ESMPRO/UPSManager マネージャから採取することができます。採取手順は以下を参照してください。

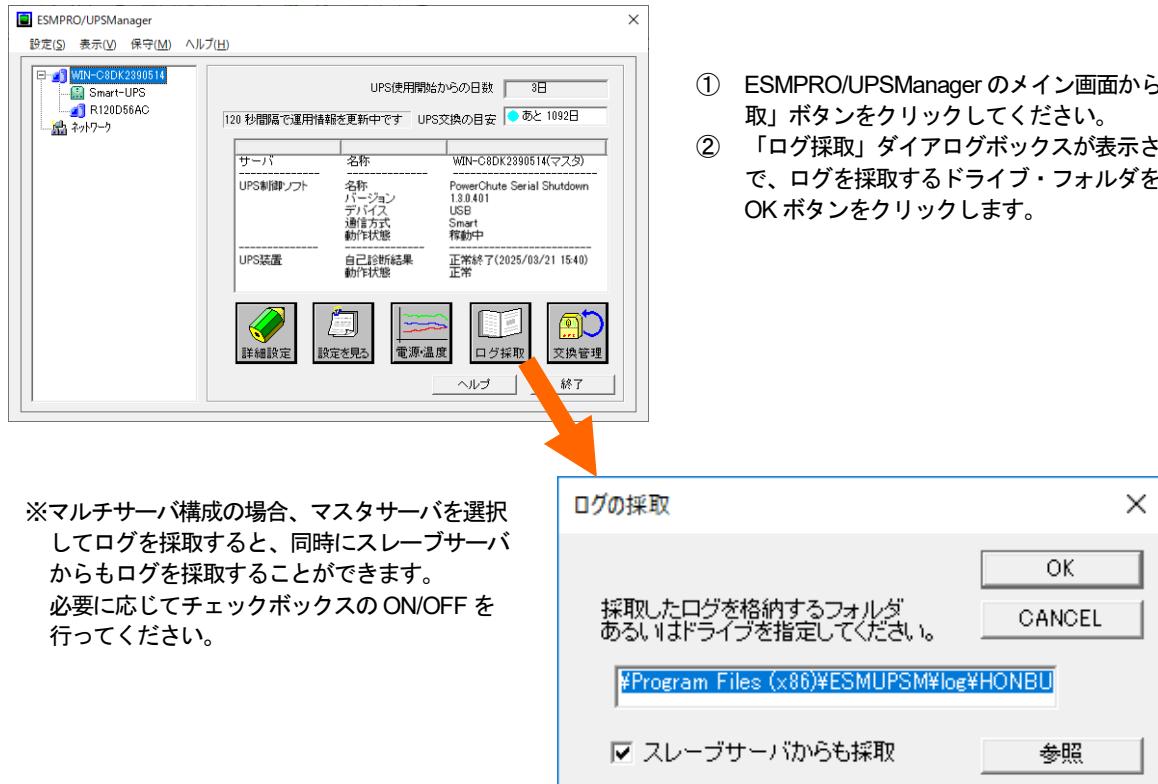


図7. 1-1

※また、メニューから「全サーバログ採取」を選択することによって、ツリービューに登録しているすべてのサーバに対して、ログの採取を行うことができます。  
必要に応じてチェックボックスの ON/OFF を行ってください。

(1) 以下のメッセージが表示されたら、ログ採取は終了です。

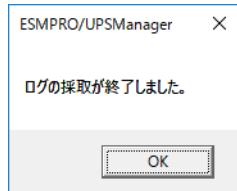


図7. 1-2

- (2) 採取されたログのファイルは、通常のサーバでは②で指定したフォルダに格納されます。マルチサーバ構成や「全サーバログ採取」を指定したときは②で指定したフォルダにサーバ名のサブフォルダが生成され、その中に格納されます。
- (3) エクスプローラにより、採取先として指定したフォルダごと USB メモリ等の外部記憶媒体にコピーしてください。  
採取メディアによって、ディスクフル、書き込み禁止、デバイスの準備ができていない、上書き確認、フォルダが存在しない等、メッセージが表示された場合、各メッセージに従って操作を行ってください。  
ただし、対象サーバからのログ採取に失敗した場合、以下のようなダイアログが表示されます。

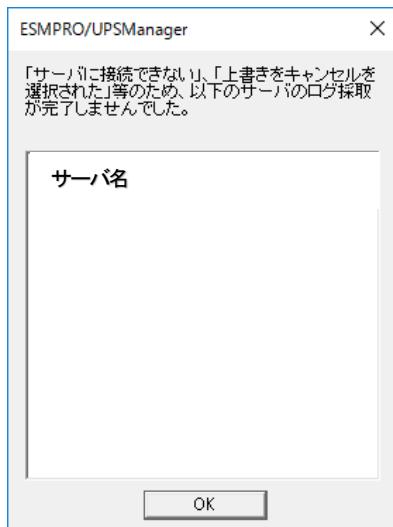


図7. 1-3

このダイアログ内に挙げられたサーバについては、手動でログ採取を行ってください。次の「7.1.2 ESMPRO/UPSManager／PowerChute Serial Shutdown についての手動ログ採取」を参照してください。

## 7.1.2 ESMPRO/UPSManager／PowerChute Serial Shutdown についての手動ログ採取

何らかの不具合により ESMPRO/UPSManager によるログ採取が不可能であった場合、手作業による必要な情報の採取を行ってください。採取する情報は、『ESMPRO/UPSManager のログ』および『PowerChute Serial Shutdown のログ』です。LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合、『ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのログ』も必要になります。マルチサーバ構成の場合は、マスタサーバ、スレーブサーバすべてについてログの採取を行ってください。

以下の手順に従って作業を行ってください。

### ※注意：

ログ採取するサーバが Linux サーバの場合、「7.3 Linux サーバのログ採取」を参照の上、ログ採取を行ってください。

#### ＜ESMPRO/UPSManager のログ＞

- (1) エクスプローラで ESMPRO/UPSManager がインストールされているフォルダを開く。  
(デフォルト : ¥Program Files (x86)\ESMUPSM)
- (2) その中にある DLL、EXE、MSG、CHM 以外のファイルおよびフォルダを USB メモリ等の外部記憶媒体に保存する。  
※ログのサイズは設定によって異なります。

PowerChute Serial Shutdown のログ採取については、PowerChute Serial Shutdown のインストールガイド／リースノートに記載されている情報を参照の上、行ってください。

#### ＜ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのログ＞

- (1) エクスプローラで ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェント がインストールされているフォルダを開く。  
(デフォルト : ¥Program Files (x86)\ESMUPSM\_M)
- (2) その中にある DLL、EXE、MSG、CHM 以外のファイルおよびフォルダを USB メモリ等の外部記憶媒体に保存する。  
※ログのサイズは設定によって異なります。

## 7. 2 Windows OS および本体装置に関する情報の採取

ここではOSおよび本体装置に関する各種情報の採取方法を説明します。

採取する情報は以下のようになっています。

- (1) イベントログ
- (2) システム情報ファイル
- (3) CollectログおよびIPMIログ（ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentをインストールしている場合のみ）

### 7. 2. 1 イベントログ

イベントログは、システムログとアプリケーションログの両方を採取してください。

※イベントログのサイズは設定によって異なります。

- (1) [Windows管理ツール]からイベントビューアを起動します。
- (2) [Windowsログ]のツリーでApplicationログを表示させ、【操作】を指定し、  
【すべてのイベントを名前を付けて保存】を選択します。
- (3) ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスに  
ログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- (4) セーブしたファイルをUSBメモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- (5) 同様にして、システム（ツリーでシステムを指定）のイベントログも採取してください。

### 7. 2. 2 システム情報ファイル

システム情報ファイルをUSBメモリ等の外部記憶媒体に保存してください。

システム情報ファイルのサイズは環境によって異なります。

- (1) スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を起動し、『名前』の入力欄に「msinfo32.exe」と入力してください。  
「システム情報」が起動します。
- (2) メニューから【ファイル】→【上書き保存】を選択します。
- (3) 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」ボタンをクリックしてください。システム  
情報ファイルがセーブされます。
- (4) セーブしたファイルをUSBメモリ等の外部記憶媒体に採取してください。

### 7. 2. 3 Collectログの採取

ESMPRO/UPSMangerに必要なCollectログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリティは使用しているサーバ装置のEXPRESSBUILDERまたはStarter Packに格納されています。または、下記サイトからもダウンロード可能です。

- ・装置情報収集ユーティリティ(Windows版最新バージョン)  
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110130>

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にてCollectログを採取してください。

・ESMPRO/ServerAgentServiceまたはESMPRO/ServerAgentがインストールされている場合は、Collectログ  
は、ESMPRO/ServerAgentServiceまたはESMPRO/ServerAgentの「collect.exe」で採取します。collect.exeは  
ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentインストールフォルダ（デフォルトは¥ESM）の¥tool  
フォルダ配下にあります。

collect.exeにより採取される情報は、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgentインストールフォ  
ルダ下の「¥tool¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip形式)で格納されます。

・ESMPRO/ServerAgentServiceまたはESMPRO/ServerAgentがインストールされていない場合は、装置情報収  
集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「¥stdclct¥collect.exe」を実行してください。採取される情報は  
「¥stdclct¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip形式)で格納されます。

上記内容の詳細について、装置情報収集ユーティリティに添付しているreadme.txtをご参照ください。

## 7. 3 Linux サーバのログ採取

ログ採取対象は、ESMPRO/UPSManager ログ、PowerChute Serial Shutdown ログ、ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントログ、シスログ、Collect ログになります。

### 7. 3. 1 ESMPRO/UPSManager のログ採取

「7.1 ESMPRO/UPSManagerおよびUPS制御ソフトウェアのログ採取」のログ採取が正常に行われた場合、以下の手順は必要ありません。「7.3.2 シスログ」の手順に進んでください。

#### <ESMPRO/UPSManager のログ>

- (1) ESMPRO/UPSManager のインストールフォルダへ移動します。  
(デフォルト : /opt/nec/ESMUPSM)
- (2) その中にある.log、.apc、.tmp、.old、.ini、.INI、.slv、.txtのファイルおよびフォルダをUSBメモリ等の外部記憶媒体に保存してください。

PowerChute Serial Shutdown のログ採取については、PowerChute Serial Shutdown のインストールガイド／リリースノートに記載されている情報を参照の上、行ってください。

#### <ESMPRO/UPSManager マルチサーバエージェントのログ>

- (1) ESMPRO/UPSManagerマルチサーバエージェント のインストールフォルダへ移動します。  
(/opt/nec/ESMUPSM\_M)
- (2) その中にある.log、.apc、.tmp、.old、.ini、.INI、.slv、.txtのファイルおよびフォルダをUSBメモリ等の外部記憶媒体に保存してください。

### 7. 3. 2 シスログ

以下コマンドで出力されるすべてのファイルを採取してください。

```
#ls /var/log/messages*
```

(例)

```
# ls /var/log/messages*
/var/log/messages      /var/log/messages-20250124
/var/log/messages-20250222 /var/log/messages-20250321
```

### 7. 3. 3 Collect ログの採取

ESMPRO/UPSManager に必要な Collect ログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリティは使用しているサーバ装置の EXPRESSBUILDER または Starter Pack に格納されています。または、下記サイトからもダウンロード可能です。

- ・装置情報収集ユーティリティ (Linux版最新バージョン)  
<https://www.support.nec.co.jp/view.aspx?NoClear=on&id=9010110046>

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にて Collect ログを採取してください。

- ・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログは、ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent の「collect.sh」で採取します。collect.sh は ESMPRO/ServerAgentService 、 ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ（デフォルトは /opt/nec/esmpro\_sa）の tools ディレクトリ配下にあります。collectsa.sh を実行したカレントディレクトリ下に「collectsa.tgz」というファイルが生成されます。
- ・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合は、装置情報収集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「/stdclct/collectsa.sh」を実行してください。collectsa.sh を実行したカレントディレクトリ下に「collectsa.tgz」というファイルが生成されます。

上記内容の詳細について、装置情報収集ユーティリティに添付している readme.txt をご参照ください。

## 8. UPS 交換後の設定

ここでは UPS を交換した場合、ESMPRO/UPSManger での設定方法を説明します。

### 8.1 同一型番の UPS に交換する場合

同一型番の UPS に交換する場合、PowerChute Serial Shutdown v1.3 インストールガイド／リリースノートの「UPS 交換後の設定」を参照し、PowerChute Serial Shutdown を設定してください。

PowerChute Serial Shutdown の設定完了後、ESMPRO/UPSManger の「UPS 交換管理」をご利用いただく場合は、「UPS 使用開始日」と「UPS 交換目安」を変更してください。

### 8.2 異なる型番の UPS に交換する場合

LCD パネルなし Smart-UPS から異なる型番 LCD パネルなし Smart-UPS へ交換する場合、PowerChute Serial Shutdown v1.3 インストールガイド／リリースノートの「UPS 交換後の設定」を参照し、PowerChute Serial Shutdown 設定してください。

PowerChute Serial Shutdown の設定完了後、ESMPRO/UPSManger の「UPS 交換管理」をご利用いただく場合は、「UPS 使用開始日」と「UPS 交換目安」を変更してください。

異なる型番の LCD パネル付き Smart-UPS へ交換する場合は、ESMPRO/UPSManger を再インストールする必要があります。

また、LCD パネル付き Smart-UPS から LCD パネルなし Smart-UPS、あるいは、LCD パネルなし Smart-UPS から LCD パネル付き Smart-UPS へ交換する場合も、ESMPRO/UPSManger を再インストールする必要があります。

ESMPRO/UPSManger を再インストール後、第 4 章環境設定を参照し、UPS 交換後に各項目を使用している環境に適した値へ設定してください。